

市町村名		本部町					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-	花いっぱい運動の推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ	
担当部課名	企画政策課	事業実施(予定)年度	平成24～28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備 -1-(1)	
事業内容	観光地としての魅力を高めるため、国道及び県道沿いにプランターの設置や花の植え付けを行う。実施は、本部町観光協会へ委託する。植え付け作業は、町内の各種団体から成る「本部町まちぐるみ花いっぱい推進協議会」で行う。						
実施方法	直接実施      委託      補助      負担      その他（ ）						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	18,000	18,000			
		(b)予算現額	18,000	18,000			
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)繰越額	-	0			
	A.計(b+d)		18,000	18,000			
	B.執行済額		17,867	17,990			
	うち交付金充当額		14,293	14,392			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		99.3%	99.9%			
予算の状況の説明		当初の計画通り予算を適正に執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	美化作業への参加者数	目標	( 270人 )	( 1,080人 )	( )	( )	
		実績	270人	1,080人			
	プランター設置数	目標	( 540個 )	( 270個 )	( )	( )	
		実績	540個	270個			
達成状況説明	「本部町まちぐるみ花いっぱい推進協議会」を設立し、町内12地区の住民参加による沿道等のプランターに草花の植付を実施することにより、観光地イメージ向上が図られた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(28年度)
	美化作業への参加者数	目標	( 0人 )	( 270人 )	( 1,080人 )	( )	( 年間1,780人 )
		実績		270人	1,080人		
	プランター設置数	目標	( 0人 )	( 540個 )	( 270個 )	( )	( 延1,185個 )
		実績		540個	270個		
	進捗状況説明	最終目標値に向けて、プランター設置個数の成果を達成することが出来た。					

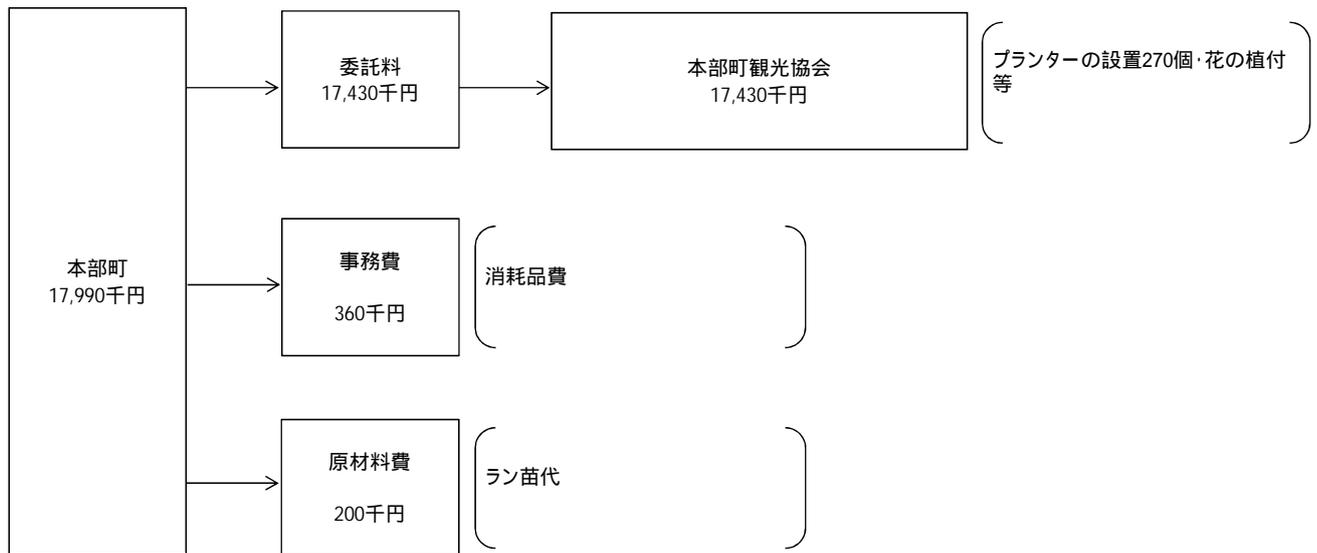
推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ボランティアの参加が事業推進に不可欠である。</li> <li>・地域風土にあった草花の選定及び植付場所(プランター設置による交通障害にならない場所及び、住民が安全に維持管理できる場所の選定)の確保に関する検討が課題になる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続的な維持管理(草花の植付、除草、水やり)の作業が重要であることから、作業の効率化等(特に、水やりの回数を軽減できる水タンク付高仕様プランター設置)の検討が必要。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

地域住民が安全に維持管理できるプランター設置場所の選定及び、維持管理に関する効率化の検討を行い、既存プランターへの維持管理を含め、新たなプランター設置も計画的に行い、持続可能な沿道等の地域美化向上に勤める。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
17,990	17,990	14,392	3,598	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託先は、観光振興を目的として沿道美化活動の実績のある町観光協会を主体としており妥当と考える。 積算については、複数者見積による予算となり妥当と考える。 費目・用途に関しては額の確定時において確認を行い適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

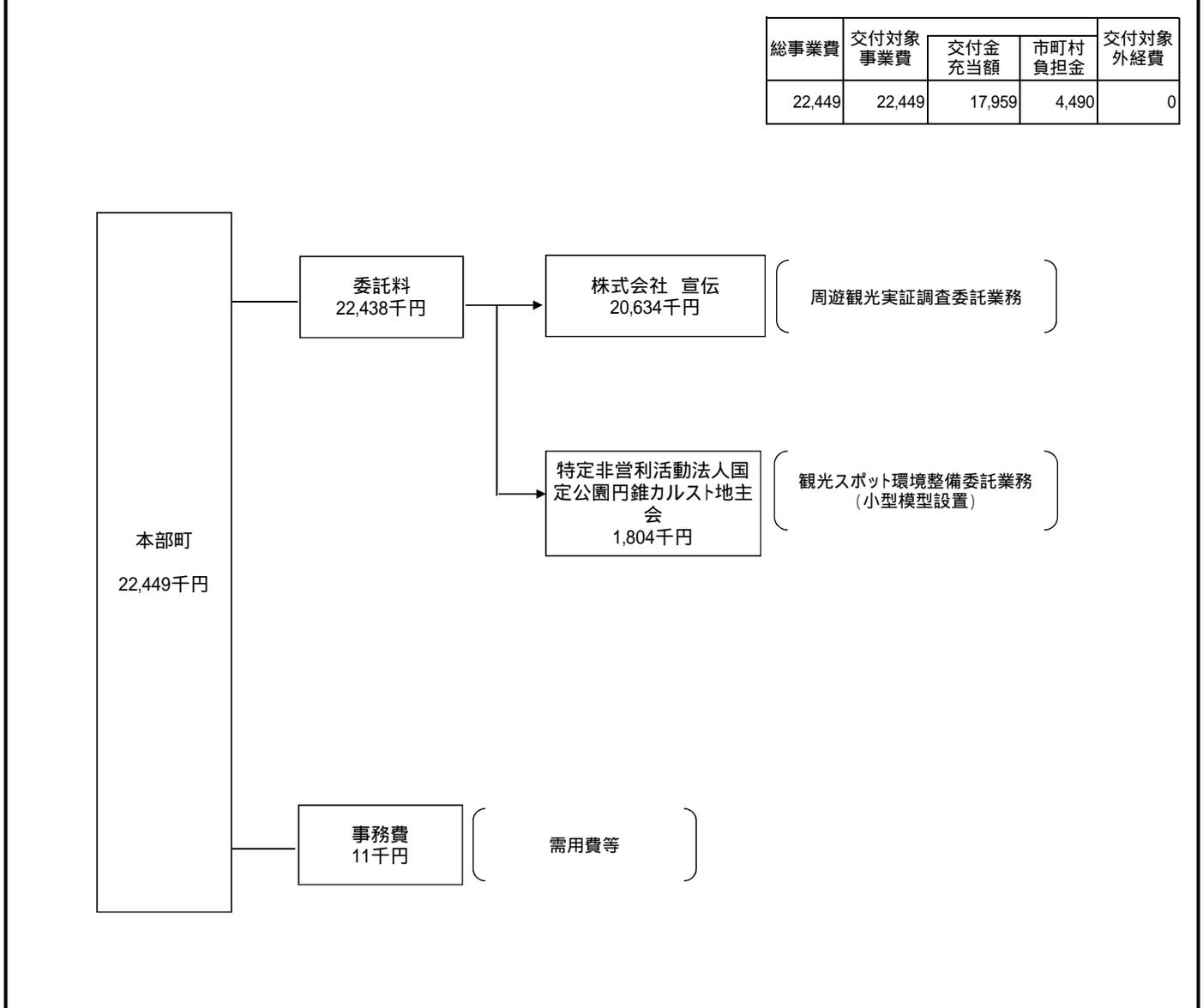
市町村名		本部町					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-	周遊観光実証調査事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ	
担当部課名	企画政策課	事業実施(予定)年度	平成24～28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備 -1-(1)	
事業内容	既存のタクシーを活用して、観光客に認知されていない本部町内の穴場的スポットの周遊観光及び、各観光スポットの観光ガイドや各種体験観光のサポートを行う人材の育成を行う。						
実施方法	直接実施      委託      補助      負担      その他 (   )						
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況 (a)当初予算額 (b)予算現額 (c)増減額(b-a) (d)繰越額 A.計(b+d)		10,000	25,283			
			10,000	25,283			
			0	0			
			-	0			
			10,000	25,283			
		B.執行済額					
		うち交付金充当額	9,995	22,449			
		次年度繰越額	7,995	17,959			
		次年度繰越額	0	0			
	執行率(%) (B/A)	100.0%	88.8%				
予算の状況の説明	当初予定していた賃金職員を雇用しなかったため不用額は生じたが事業は計画通りに遂行できた。						
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	周遊タクシーの試験稼働	目標	( 実証調査の実施 )	( 3台 )	(   )	(   )	
		実績	実証調査完了	3台			
	事業実施主体の組織立上	目標	( - )	( 1団体 )	(   )	(   )	
		実績	-	0団体			
達成状況説明	町内の周遊観光の実現性についてその可能性を調査するため昨年度に引き続きタクシー3台を稼働させ「周遊観光実証調査」を実施した。今回の調査では、事業の独立採算化や運営組織についての諸課題点が報告され、次年度からは、課題解決と事業の本格運営に取り組む。 また、事業実施主体の組織立上を目標としていたが、実証調査の結果、新たに組織を立ち上げることはコスト的に課題が多く、既存の組織(タクシー事業者)が事業を運営した方がより経済的に事業を展開できる可能性があるため、事業実施主体については引き続き検討を要するため、新規立ち上げは行っていない。						
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	H25成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(28年度)
	新たな周遊観光コースの創出	目標	( 0コース )	( 2コース )	( 2コース )	(   )	( 4コース )
		実績		2コース	2コース		
	[参考指標]	目標	(   )	(   )	(   )	(   )	(   )
		実績					
	進捗状況説明	周遊観光実証調査の実施で複数の観光コース案を検討し、実施可能な2コースを新たにコース設定し、季節に応じた特色ある合計4コースの創出ができた。 今後も充実した観光コースを設定するため観光コースの検討を行っていく。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	・事業を運営する事務局を新たに設置すると、現状のタクシー稼働率では採算が取れない可能性がある。	・運営事務局については、既存のタクシー会社へ事務を移管するなど効率的な運営組織となるよう検討を行う。
	・レンタカー観光が多いため本部町内発着だと、レンタカーを運転してきた観光客がターゲットとなってしまうタクシー利用率が思うように上がらない。	・20代30代はレンタカーを自分で運転して観光できるので、40代以上のシニア層をターゲットに事業展開を図る。そのためには、中南部発着のバスツアーとの連携や旅行会社との商品開発に取り組んでいく必要がある。

**今後の取り組み方針**

今後の事業展開にあたっては、次のとおり取り組んでいく。  
 ターゲットの開発...シニア層を核とした顧客の取り込みを行う。  
 事務局の検討...タクシー会社や観光協会など既存組織での事業実施を検討する。  
 広報戦略の強化...県外観光客は事前にスケジュールを組んで来県することから、事前に本事業を周知するため旅行エージェントと連携した商品開発や、広告メディアへの広告掲載などを展開していく。  
 観光コースの充実...町内エリア以外の観光要望が多いので、北部地域もコースに組み込んでいく。

**資金の流れ**  
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託事業者は前年度に公募型企画競争方式により、企画内容、企業組織、実績等を勘察した上で選定した事業者と随意契約しており、妥当であると考えている。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	費目・使途については事業目的達成の観点から必要なもの等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		本部町					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-	外国人対応観光人材育成事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-工	
担当部課名	商工観光課	事業実施（予定）年度	平成24～28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	世界に通用する観光人材の育成 -1-(1)	
事業内容	近年、外国からの観光客が増加してきており、外国人インバウンドを促進するためにもホテルや飲食店、土産物店などの観光業や商工業従事者などの関係者に対し、語学や郷土文化の研修等を実施し、外国人サービス向上を図る。						
実施方法	直接実施      委託      補助      負担      その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	1,000	2,000			
		(b)予算現額	1,000	2,000			
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)繰越額	-				
	A.計(b+d)		1,000	2,000			
	B.執行済額		999	1,999			
	うち交付金充当額		799	1,599			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率（％）(B/A)		99.9%	100.0%			
予算の状況の説明		当初の計画通り予算を適正に執行できた。					
活動目標（指標）及び達成状況	H25活動目標（指標）		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	外国語講座の実施 講座開催数：年9回	目標	（ 9回 ）	（ 年9回 ）	（ ）	（ ）	
		実績	9回	年18回			
		目標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	
	実績						
達成状況説明	観光従事者を対象に英語講座を前期（初級コース）と後期（中級コース）に分けて講座を実施した。各コース全9回実施、計18回						
成果目標（指標）及び進捗状況	H25成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（28年度）
	観光人材の育成数：10名 （ホテルや商店街など観光の第一線でお客様に接するスタッフで語学研修を受講し、観光サービスにおいて最低限のコミュニケーション能力を習得した、外国人に対応する人材育成） 〔参考指標〕	目標	（ 0名 ）	（ 10名 ）	（ 10名 ）	（ ）	（ 50名 ）
		実績		11名	28名		
		目標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
		実績					
進捗状況説明	講座は、前・後期に分け各9回実施した。募集方法は、本部町のHP、観光協会の会員へ案内を行い募集した。申し込み状況は、前期、28名の申し込みがあり、内20名が修了認定、後期は12名の申し込みがあり、内8名が修了認定を受けた。内容として、前期では、外国人観光客を受け入れるにあたり、円滑なコミュニケーションがとれるように基本的挨拶や表現の練習を行い地震をつける事を目的とした。後期では、使用頻度の高い観光会話や基礎文法まで、受講生のレベルを確認しながら会話・ヒアリング能力の向上を図った。						

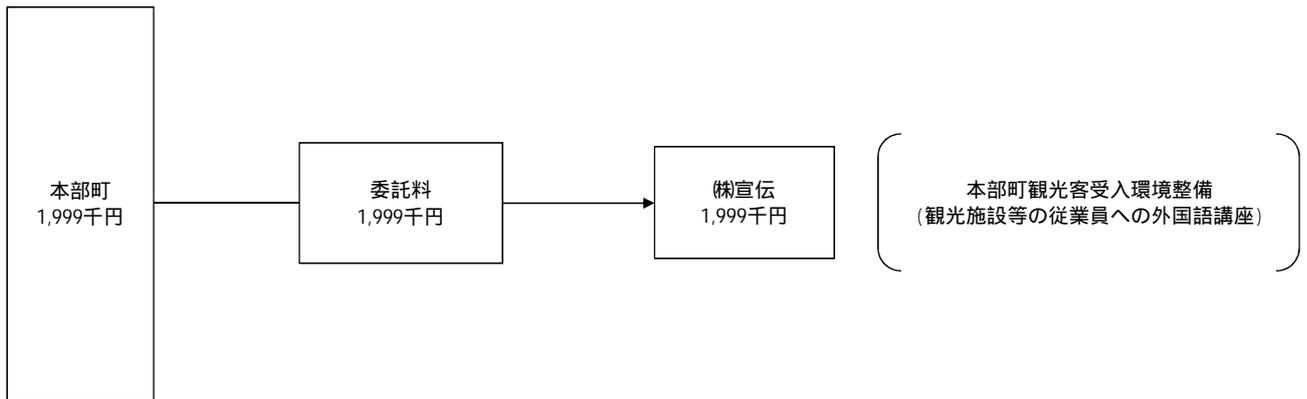
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・受講後、アンケート調査を行った結果、講義内容には、十分満足している一方、講座の時間帯に関して、「ちょうど良い」「遅い時間が良い」という回答に分かれた。勤務時間中に参加されている方もいて、出来れば、業務時間後の夜間に実施して欲しいなどの声があった。飲食関係に従事している方などは、午後～夕方を望む声があり、時間帯によって参加できる層も異なってくると思われる。	・多くの方が受講出来るよう、講義の時間を日中と夜間に分けて実施する事で改善を図る。

**今後の取り組み方針**

平成24,25年度においての講座で、商工会や観光協会の会員、その他町民へ受講の案内を行い、受講の申し込みのあった方、全てに講座を受講させる事が出来たため平成25年度で事業終了としたが、今後も新規で要望があれば講座の実施を検討したい。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,999	1,999	1,599	400	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託事業者は公募型プロポーザル方式により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

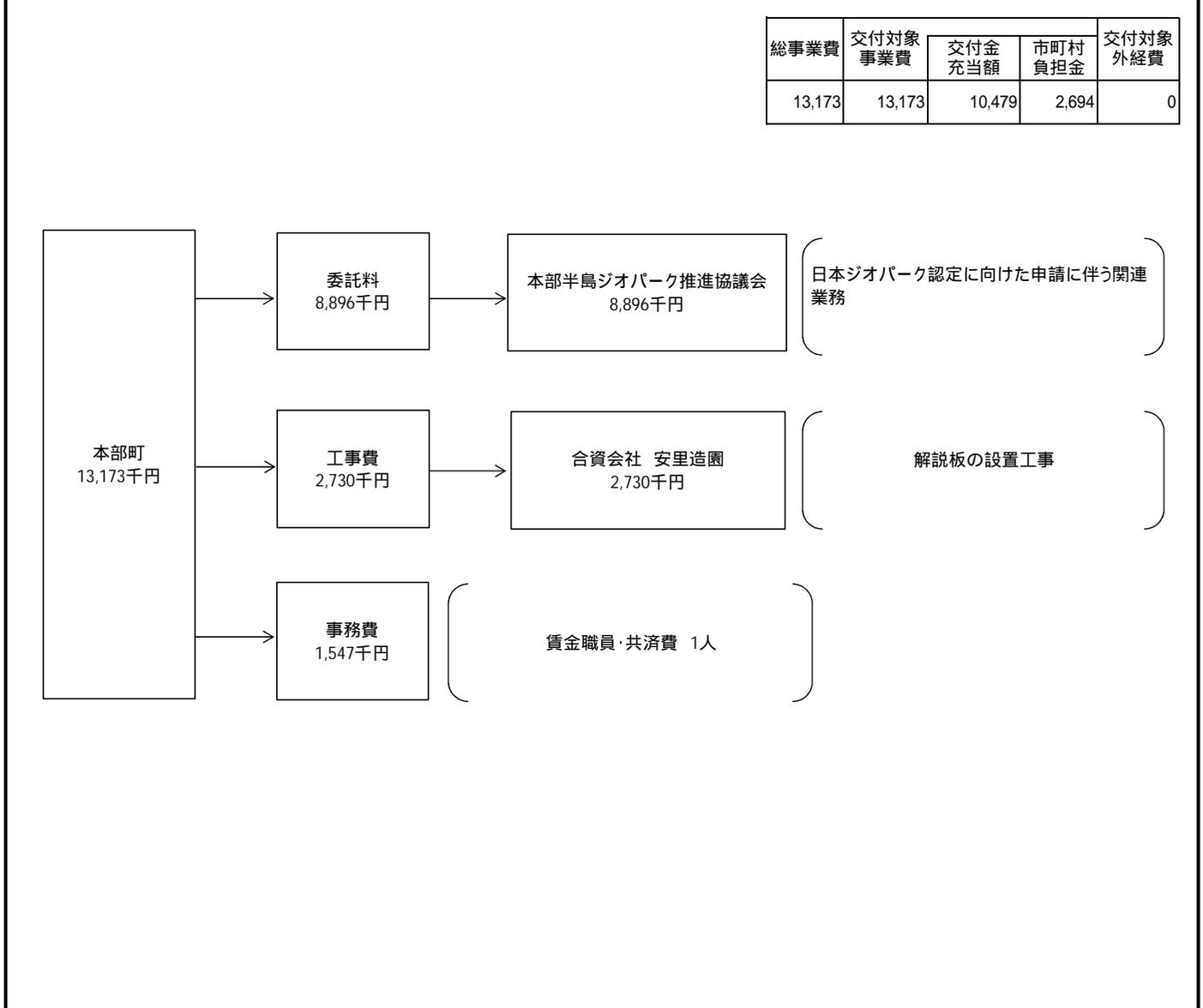
市町村名		本部町					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-	本部半島ジオパーク推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ	
担当部課名	企画政策課	事業実施（予定）年度	平成24～28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備	
事業内容	本町には、年間約300万人余りの観光客が訪れているにもかかわらず町内への十分な経済効果が得られていないのが現状である。また、1人でも多くの宿泊滞在者を増やすことが喫緊の課題である。そこで、本部半島特有の「熱帯カルスト地形」等をジオパークに登録することで地域振興を図る。						
実施方法	直接実施      委託      補助      負担      その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	8,400	20,000			
		(b)予算現額	8,115	20,000			
		(c)増減額(b-a)	285	0			
		(d)繰越額	-	0			
	A.計(b+d)		8,115	20,000			
	B.執行済額		7,657	13,173			
	うち交付金充当額		6,125	10,479			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		94.4%	65.9%			
予算の状況の説明		ジオパークの認定を受けることが出来なかったため、その後のジオツアー等の企画が行えず不用額が生じた。					
活動目標（指標）及び達成状況	H25活動目標（指標）		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	ジオツアー等の企画・実施	目標	( 5回 )	( ジオツアー等の企画・実施 )	( )	( )	
		実績	5回	ジオツアー等の企画・実施			
	パンフレット・ポスター等の作成	目標	( - )	( ポスターの作成 )	( )	( )	
		実績	-	ポスターの作成			
	解説板設置	目標	( 2基 )	( 2基 )	( )	( )	
		実績	2基	2基			
	日本ジオパーク認定活動	目標	( - )	( ジオパーク認定活動の実施 )	( )	( )	
		実績	-	ジオパーク認定活動の実施			
達成状況説明	ジオツアーの企画・実施を行い参加人数の目標値を概ね達成することができた。また、ホームページの作成及び解説板の設置についても完了することが出来た。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H25成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（28年度）
	ジオツアーへの参加者数	目標	( 24人 )	( 60人 )	( 135人 )	( )	( 180人 )
		実績		59人	170人		
	[参考指標]	目標	( )	( )	( )	( )	( )
		実績					
	進捗状況説明	日本ジオパークに登録する事を目標に認定申請を行い、啓蒙活動及び解説板の整備を行った。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本ジオパークの認定を予定しているエリアは、本部半島及び周辺離島としているが関係市町村や各種団体内に、認定に向けた取り組みや連携体制に差が認められる。</li> <li>ジオパーク認定に向けた人的、財政的負担が一部に集中しており、広域的な取り組みを行っていかねばならない中で、障害となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ジオガイドの養成及び関係市町村との連携を確立させ、本部半島ジオパーク推進協議会の組織強化及び運営体制の確立を図ることが重要になる。</li> <li>関係市町村や各種団体との情報交換や意見交換を充実させることにより、取り組みや連携体制の格差を解消していくことが必要である。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

平成25年度の日本ジオパークの認定申請の結果、認定を受ける事が出来なかった。その主な課題は、エリアの問題、名称の問題、運営組織の問題である。その課題の解決に関して、申請エリアに含まれる関係市町村(本部町を含む8市町村)で検討した結果、各市町村における地道な活動を継続し、ジオパークの理念である、地域資源の保全・教育・地域振興の推進に努め、課題の解決を図るべく各種活動を展開していくことが重要になる事を確認した。今後は、これまでの成果を生かし、関係市町村や各種団体との情報交換や連携体制を維持しつつ、本部町として地域資源の保全や、教育・観光の振興に関して、地域主体となった活動の継続推進を図る。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 点検 評価 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託先行は、本部半島ジオパーク推進協議会の設立目的と事業内容が一致しており妥当と考える。 予算規模については、日本ジオパークの認定に関する関連項目のみの事業費となっている。 費目・用途に関しては額の確定時において確認を行い適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		本部町					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-	ハブ咬傷防止事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ	
担当部課名	保険予防課	事業実施(予定)年度	平成25～29年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備 -1-(1)	
事業内容	<p>タイワンハブ捕獲トラップの購入及び設置・回収を行うことにより、個体数の減少及び拡大する生息域の抑制を図り、地域住民や観光客の咬傷事件を予防し、安全・安心な観光地づくりを目指す。</p>						
実施方法	<p>直接実施      委託      補助      負担      その他 (   )</p>						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況 (a)当初予算額 (b)予算現額 (c)増減額(b-a) (d)繰越額 A.計(b+d)		-	6,205			
			-	6,205			
			-	0			
			-	-			
			-	6,205			
	B.執行済額		-	5,009			
	うち交付金充当額		-	4,007			
	次年度繰越額		-	0			
	執行率(%) (B/A)		-	80.7%			
予算の状況の説明		捕獲したハブの売上収入による精算及び事業を当初計画より1ヶ月早く終了したため事業費に不用額が生じた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	ハブ捕獲器設置数	目標	( - )	( 150カ所 )	( )	( )	
		実績	90カ所	150カ所			
		目標	( )	( )	( )	( )	
		実績					
達成状況説明	<p>タイワンハブの目撃事例が多い地域への捕獲器設置を重点的に行ったことにより、目標を上回る数を駆除することができた。また、タイワンハブの生息地域と、未確認地域の境界に捕獲器を設置し、生息域拡大の抑制に努めた。</p>						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(24年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	ハブ捕獲数年間:150匹	目標	( - )	( - )	( 150匹 )	( )	( 延1,000匹 )
		実績	204匹	204匹	271匹		
	[参考指標]	目標	( )	( )	( )	( )	( )
		実績					
	進捗状況説明	<p>捕獲器設置数を増やし、設置場所を工夫することにより、平成25年度の捕獲目標を達成することができた。</p>					

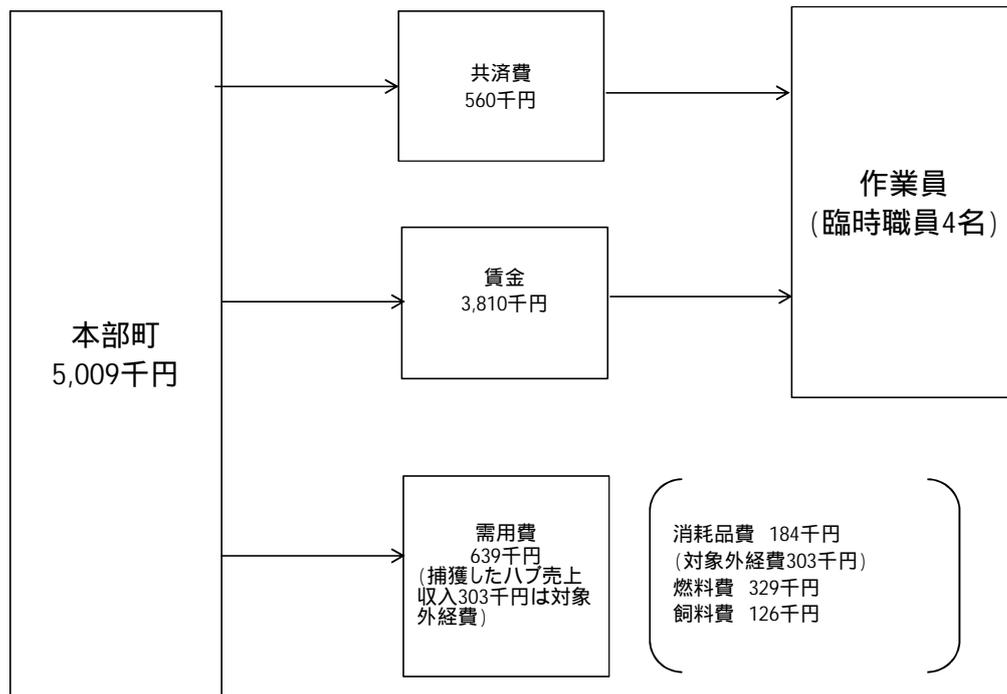
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>タイワンハブの目撃事例が多い地域への捕獲器設置を重点的に行ったことにより、捕獲目標を達成することができた。</p>	<p>現在のハブ対策については、捕獲器の設置による直接捕獲や、草刈りやハブフェンス等の環境整備以外に有効な対策がないため、今後県や専門機関等による、より効果的・効率的な防除方法の確立が望まれる。 また、本町だけではなく、タイワンハブの生息が確認されている隣接する自治体との連携を密にして、地域及び県全体での撲滅に向けた取り組みが必要である。</p>

**今後の取り組み方針**

引き続き密集地域の駆除を重点的に行い、捕獲器の設置数を増やして、個体数及び生息域拡大の抑制に努める。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,312	5,009	4,007	1,002	303



資金の流 れ、費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	・費目、用途については事業目的達成の観点から必要なものである。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		本部町					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-	本部町観光プラットフォーム構築事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ	
担当部課名	商工観光課	事業実施(予定)年度	平成25～27年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備		
事業内容	近年、観光客のニーズが多様化している中で、今後の観光推進を図るには、それらに対応した観光プラットフォームづくりが必要となる。そこで今回、本事業を本部町観光協会に委託し、観光コンテンツ開発・地域関連事業者との連携・販路開拓などを行う組織づくりを行う。						
実施方法	直接実施      委託      補助      負担      その他 (   )						
予算額・執行額【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	-	25,422			
		(b)予算現額	-	25,422			
		(c)増減額(b-a)	-	0			
		(d)繰越額	-	-			
	A.計(b+d)		-	25,422			
	B.執行済額		-	24,355			
	うち交付金充当額		-	19,484			
	次年度繰越額		-	0			
	執行率(%) (B/A)		-	95.8%			
予算の状況の説明		委託事業内で県外優良事例調査の参加人数が減ったため旅費が減り、委託料で1,067千円の不用額は生じたが予算を適正に執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	・事務局体制の構築(実施計画・収支計画の策定)	目標	( - )	( ( 実施計画・収支計画の策定 ) )	( )	( )	
		実績	-	事務局体制の構築(実施計画・収支計画の策定)			
	・地域資源調査・地域事業者の連携による新たな観光商品(資源)の発掘	目標	( - )	( 新たな観光商品(資源)の発掘 )	( )	( )	
		実績	-	観光商品(資源)3件の発掘			
	・ブランド戦略の策定	目標	( - )	( 戦略策定 )	( )	( )	
		実績	-	未策定			
	達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務局体制を構築するため、観光協会ですべて3名の事務局員を採用した。</li> <li>地域事業者との連携を図るため、まずは、事業者の取り組み、課題などについて現状把握するためのヒアリングを行った。</li> <li>観光資源調査として、町内の歴史散策ツアーの実施、本町で養殖の計画がある「すっぽん」工場の見学、県内唯一のかつお節工場を見学するなど、簡素材の発掘・収集を行った。</li> </ul>					
	成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(24年度)	24年度	25年度	26年度
・事務局体制の構築(実施計画・収支計画の策定)		目標	( - )	( - )	( 事務局体制の構築(実施計画・収支計画の策定) )	( )	( 組織運営体制の強化 )
		実績		-	事務局体制の構築完了		
・地域資源調査・地域事業者の連携による新たな観光商品(資源)の発掘		目標	( - )	( - )	( 新たな観光商品(資源)の発掘 )	( )	( 情報発信 )
		実績		-	観光商品(資源)3件の発掘		
・ブランド戦略の策定		目標	( - )	( - )	( 戦略策定 )	( )	( 県内外旅行会社との連携 )
		実績		-	未策定		
進捗状況説明		観光協会を中心として事業事務局が構築できた事で、地域に埋もれている資源の調査や事業者とのネットワーク構築が強化された。					

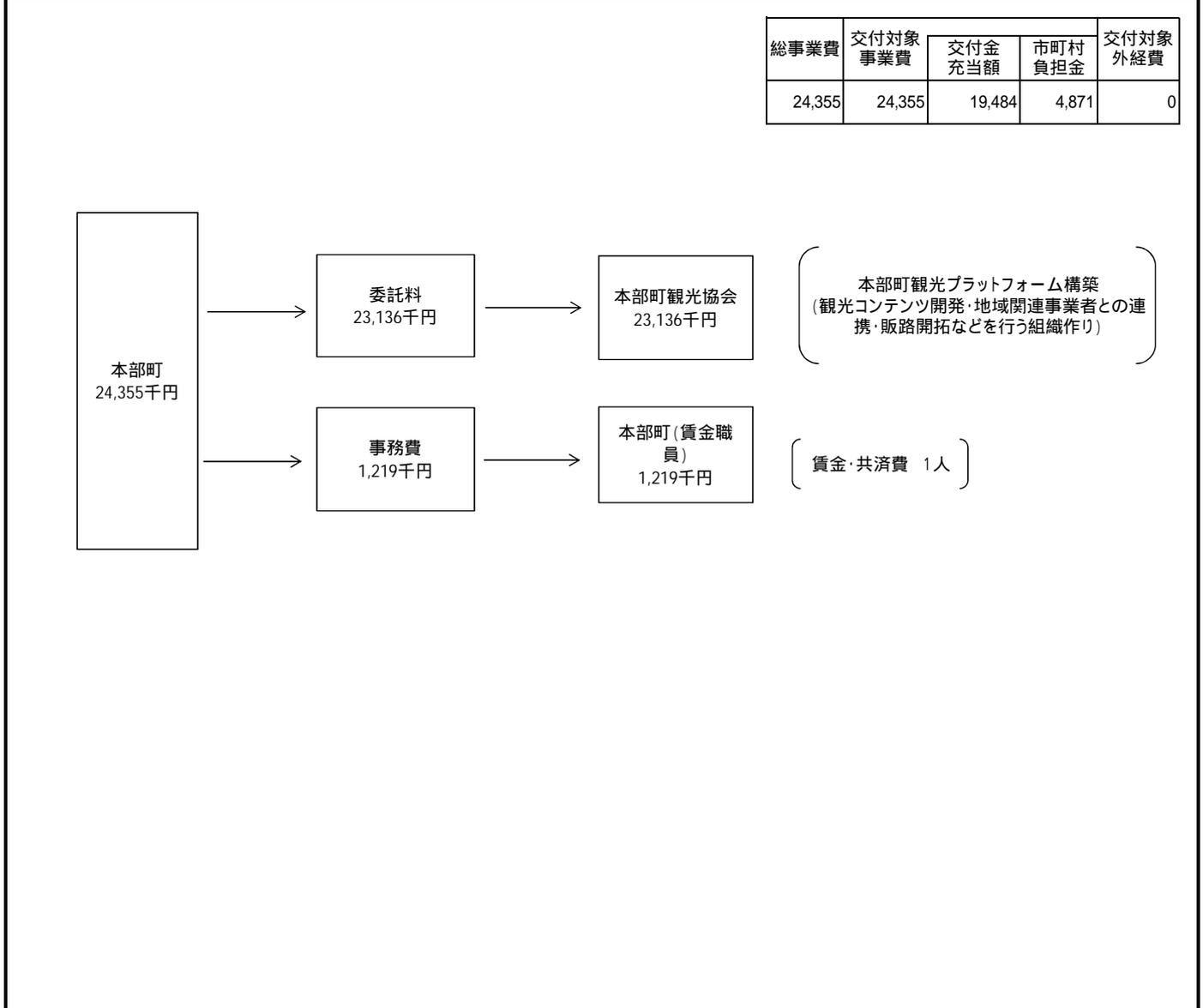
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	事業を推進する上で、まず、町内事業者に対し、本事業の周知及び理解を得る事が重要である。また、町内事業者との連携及び役割を明確化し、その上で、まちのありたい姿・ビジョンを地域で考え、共有、議論し「太陽と海と緑-観光文化のまち」を実現するために観光を通じて何が出来るのかを継続的に話しあっていく必要がある。	町内事業者を対象にした事業ワークショップを開催し、観光まちづくりについてしっかり議論する。また、その中から中核的なメンバーの育成・確保し、持続可能なまちづくりの形成に取り組む。

**今後の取り組み方針**

今後の事業展開にあたっては、次のとおり取り組んでいく。

- ・組織運営体制の強化・ネットワーク拡充……地域と密着し連携を図るため、各事業所を積極的に訪問し、より強固なネットワークを構築する。
- ・収益スキームの開発・検討……県内外の優良事例調査を行い、参考にする事で本町に最適なスキームを開発する。
- ・情報発信(SNS、イベント出展)……町内の新鮮な情報をより早く発信出来るよう、常に町内関連事業者と情報交換を行う。また、海洋博公園などを有効的に活用する。
- ・県内外旅行会社との連携……旬な情報を旅行会社へ常に提供するなど、積極的に本町のPRを行う。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 点検 評価 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託先は、観光協会の設立目的及び事業内容と一致している事。また、地域事業者との信頼関係などを考慮し、妥当と考える。 費目、使途に関しては、額の確定時において確認を行い適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	本部町						
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-	八重岳観光拠点整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ	
担当部課名	建設課	事業実施（予定）年度	平成25～28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備 -1-(1)	
事業内容	日本一早い桜祭りとして有名な八重岳には毎年多くの観光客が訪れるが、今後も本部町の主要観光拠点としてアピールしていくためには、観光客に配慮した拠点整備が必要である。本事業において排水路整備を行うことは、法面崩壊と桜（緋寒桜）の倒木防止になり観光資源の保全と観光客の安全確保が図られる。						
実施方法	直接実施      委託      補助      負担      その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	-	10,000			
		(b)予算現額	-	10,000			
		(c)増減額(b-a)	-	0			
		(d)繰越額	-	-			
	A.計(b+d)		-	10,000			
	B.執行済額		-	9,660			
	うち交付金充当額		-	7,728			
	次年度繰越額		-	0			
	執行率(%) (B/A)		-	96.6%			
予算の状況の説明		不用額は出ているが入札残によるものであり当初の計画通り予算を適正に執行できた。					
活動目標（指標）及び達成状況	H25活動目標（指標）		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	排水設計等の実施 L= 4,000m	目標	( - )	( 排水設計等の実施 )	( )	( )	
		実績	-	排水設計等の実施			
		目標	( )	( )	( )	( )	
		実績					
達成状況説明	下流部の断面については、親水性を考慮した排水断面として設計を行い、上流部の排水断面については景観に即した形状とした。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H25成果目標（指標）		基準値（24年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（28年度）
	排水設計等の実施 L= 4,000m	目標	( 0 )	( 0 )	( 排水設計等の実施 )	( )	( 排水路整備 4.4km )
		実績		-	排水設計等の実施		
	〔参考指標〕	目標	( )	( )	( )	( )	( )
		実績					
	進捗状況説明	H25年度の設計資料をもとに、地域住民説明会において事業の趣旨・目的及び設計概要説明を行いつつ、住民の意見等を踏まえ事業着手の合意形成を図る予定。					

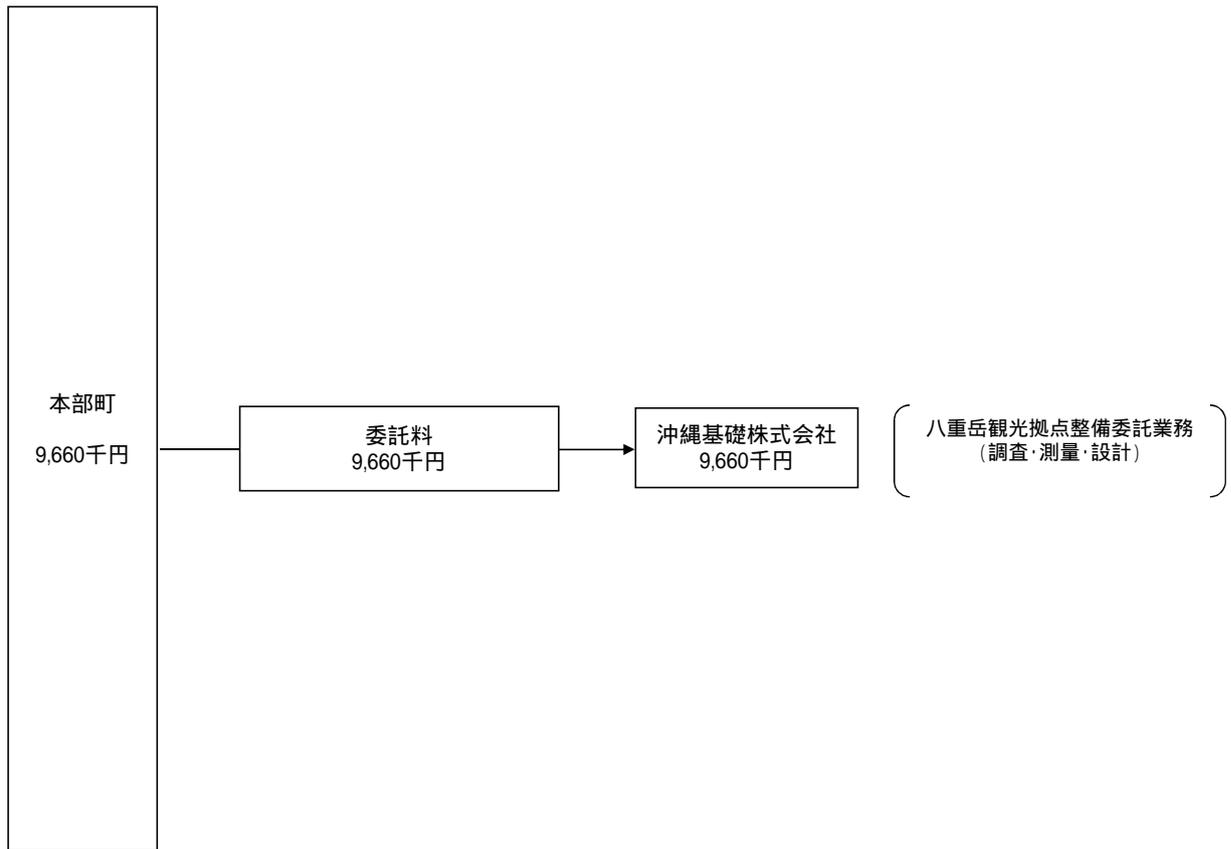
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	下流側排水断面決定において、親水性を考慮した設計計画を策定しているものの通常の流量が乏しい為親水性を確保することが厳しい状況である。降雨量の状況において親水性が変動する。	親水性を確保するため、上流域にため池等の施設を確保し、水量の安定的確保を図り、下流側における親水性確保を図る。

**今後の取り組み方針**

地域住民説明会において事業の趣旨・目的及び設計概要説明を行いつつ住民の意見等を踏まえ、下流側部分の親水性護岸工事から着手し、年度ごとに上流側への進捗を図る予定。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
9,660	9,660	7,728	1,932	0



資金の流 れ、費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託事業者は指名審査会により企業組織、実績、知識等を助案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

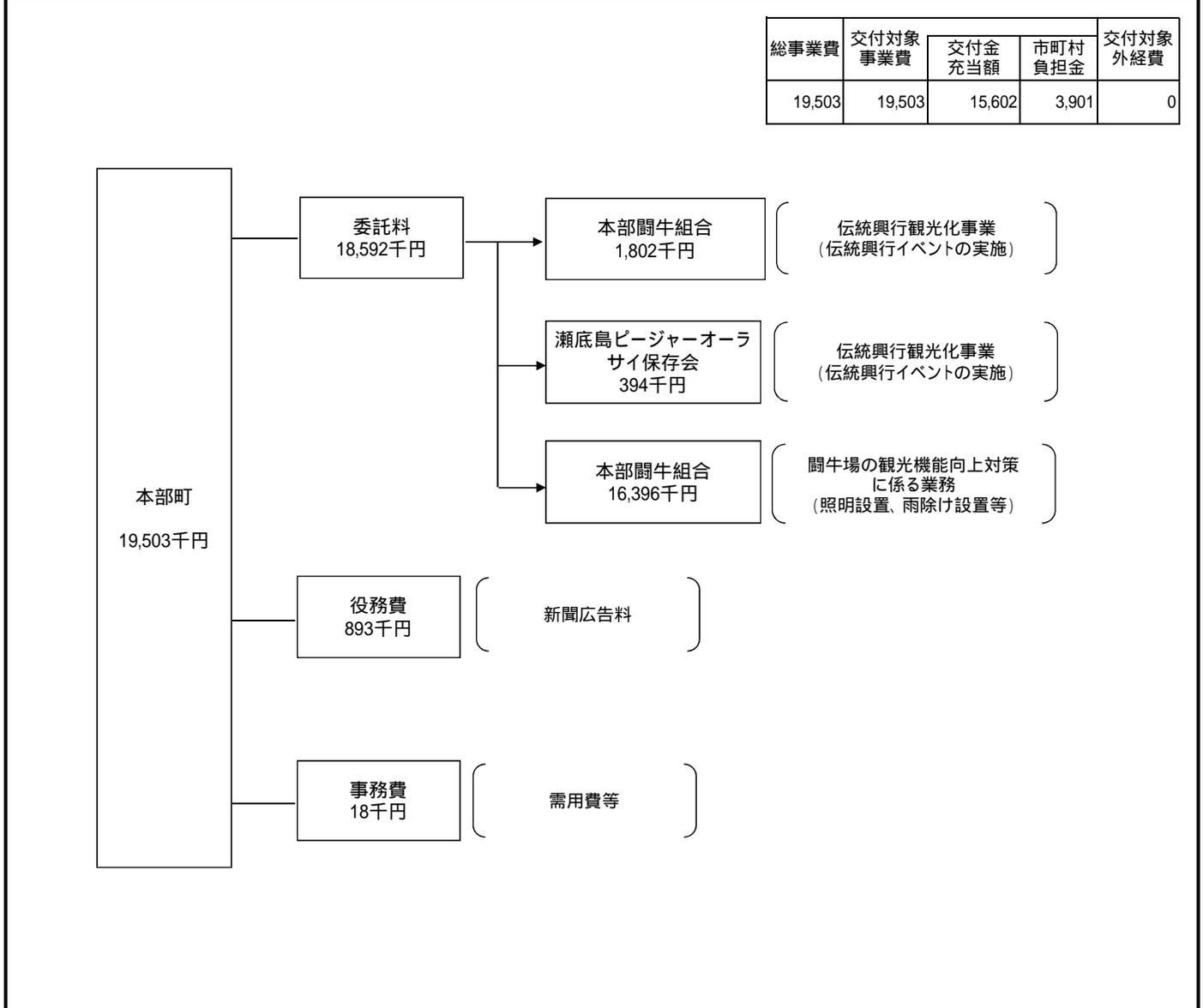
市町村名		本部町					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-	伝統興行観光化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第5章-1-(1)	
担当部課名	企画政策課	事業実施（予定）年度	平成25～28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	自然、歴史、伝統、文化などの固有の特性を生かした個性豊かな地域づくり -1-(1)	
事業内容	<p>沖縄の伝統興行である「闘牛」や「闘山羊」を後世へ継承していくために、ナイトー闘牛や闘山羊大会を定期開催することで伝統興行の活性化を図る。あわせて観光客へも広く伝統興行が鑑賞できる環境を整備し、観光資源化を促進させることで、伝統興行の担い手の経営安定化につなげていく。</p> <p>（平成25年度事業計画の沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所は記載誤り）</p>						
実施方法	直接実施      委託      補助      負担      その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	-	26,500			
		(b)予算現額	-	26,499			
		(c)増減額(b-a)	-	1			
		(d)繰越額	-	-			
	A.計(b+d)		-	26,499			
	B.執行済額		-	19,503			
	うち交付金充当額		-	15,602			
	次年度繰越額		-	0			
	執行率(%) (B/A)		-	73.6%			
予算の状況の説明		イベント開催予定時期に国政選挙があり、日時をずらして開催することが困難であったため年間で予定していたイベント回数が減ったこと及び事業収益による精算により不用額が生じた。					
活動目標（指標）及び達成状況	H25活動目標（指標）		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	伝統興行の実施	目標	( - )	( 3回 )	( )	( )	
		実績	-	3回			
	目標	目標	( )	( )	( )	( )	
		実績					
達成状況説明	本部闘牛組合、瀬底島ピージャーオーラセー保存会の共同開催により、本部町の伝統文化を広く提供するイベントとして「もとぶ観光文化フェスタ」を3回開催することができた。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H25成果目標（指標）		基準値（24年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（28年度）
	伝統興行の実施による観客数	目標	( 0人 )	( 0人 )	( 1,500名 )	( )	( 延3,000名 )
		実績		-	1,270名		
	〔参考指標〕		目標	( )	( )	( )	( )
			実績				
	進捗状況説明	もとぶ観光文化フェスタでは1,500名の観客動員数を成果目標としていたが、実施時期が冬場の観光オフシーズンだったため、観光客の取り込みが思うようにいかず目標を達成することができなかった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・秋は修学旅行など団体旅行が多く、また冬は観光客自体が少ないため、今年度の実施においては観光客の入場者数が少なかった。	・観光客を多く呼び込むために夏場の観光シーズンに実施するなど、実施時期について検討を行い集客強化を図る。 ・本部町内の観光客のみならず、北部地域または中南部地域の宿泊客へもPRを行う。

**今後の取り組み方針**

・夏場の観光シーズンに合わせてイベントを開催するなど、観光客を多く取り込むことができるよう実施時期を工夫する。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託事業者は、地域団体を選定する必要があり競争入札では対応できなかったため、随意契約で妥当であったと考えている。  費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		本部町					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-	本部町2大まつり事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ	
担当部課名	商工観光課	事業実施(予定)年度	平成25～28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備 -1-(1)	
事業内容	本部町の2大まつりである海洋まつりと桜まつりを充実させ、本部町の魅力を観光客に周知し観光産業の活性化を図る。						
実施方法	直接実施      委託      補助      負担      その他 (   )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況 (a)当初予算額 (b)予算現額 (c)増減額(b-a) (d)繰越額 A.計(b+d)		-	26,213			
			-	26,213			
			-	0			
			-	-			
	B.執行済額		-	26,067			
	うち交付金充当額		-	20,853			
	次年度繰越額		-	0			
	執行率(%) (B/A)		-	99.4%			
	予算の状況の説明		賃金職員を1月分を交付金に充てなかったため不用額が生じているが予算は適正に執行できた。				
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	本部海洋まつりの実施	目標	( - )	( 1回 )	( )	( )	
		実績	1回	1回			
	本部八重岳桜まつりの実施	目標	( - )	( 1回 )	( )	( )	
		実績	1回	1回			
達成状況説明	観光協会や商工会など関係機関との連携により、計画通りに実施する事が出来た。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(24年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(28年度)
	本部海洋まつり来訪者数	目標	( - )	( - )	( 10,000名 )	( )	( 延40,000名 )
		実績	8,629名	8,629名	11,506名		
	本部八重岳桜まつり来訪者数	目標	( - )	( - )	( 200,000名 )	( )	( 延800,000名 )
		実績	154,685名	154,685名	172,943名		
	進捗状況説明	・イベント内容の充実、事前告知の強化、シャトルバスの運行などの効果で例年よりも多くの来訪者があった。 ・桜まつりの来訪者について、目標数に達していない理由としては、まつり開催期間が短かった為(祭りの規約の中で、祭り期間は1月の第3土曜日から2月の国際洋蘭博の開催される週の日曜日までとなっており、年によって祭り開催期間が短くなったりする)しかし、1日あたりの平均来訪者数は、過去最高を記録。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>まつりなどの屋外イベントは、天候などに大きく左右される為、会場の雨風対策やイベント内容を検討する必要がある。</li> <li>駐車スペースが狭く、まつりへ来場出来ない方への対応をどうするか、検討が必要である。</li> <li>海洋まつりは、海岸周辺で行うため、海上への転落防止など警備員を増員するなど安全対策を強化する必要がある。</li> </ul>	<p>より多くの方が訪れる事ができるよう、駐車場の確保、シャトルバスの運行方法をしっかり検討する。</p> <p>安全対策については、警備会社と配置などについて十分に検討し、万全の体制で警備にあたる。</p>

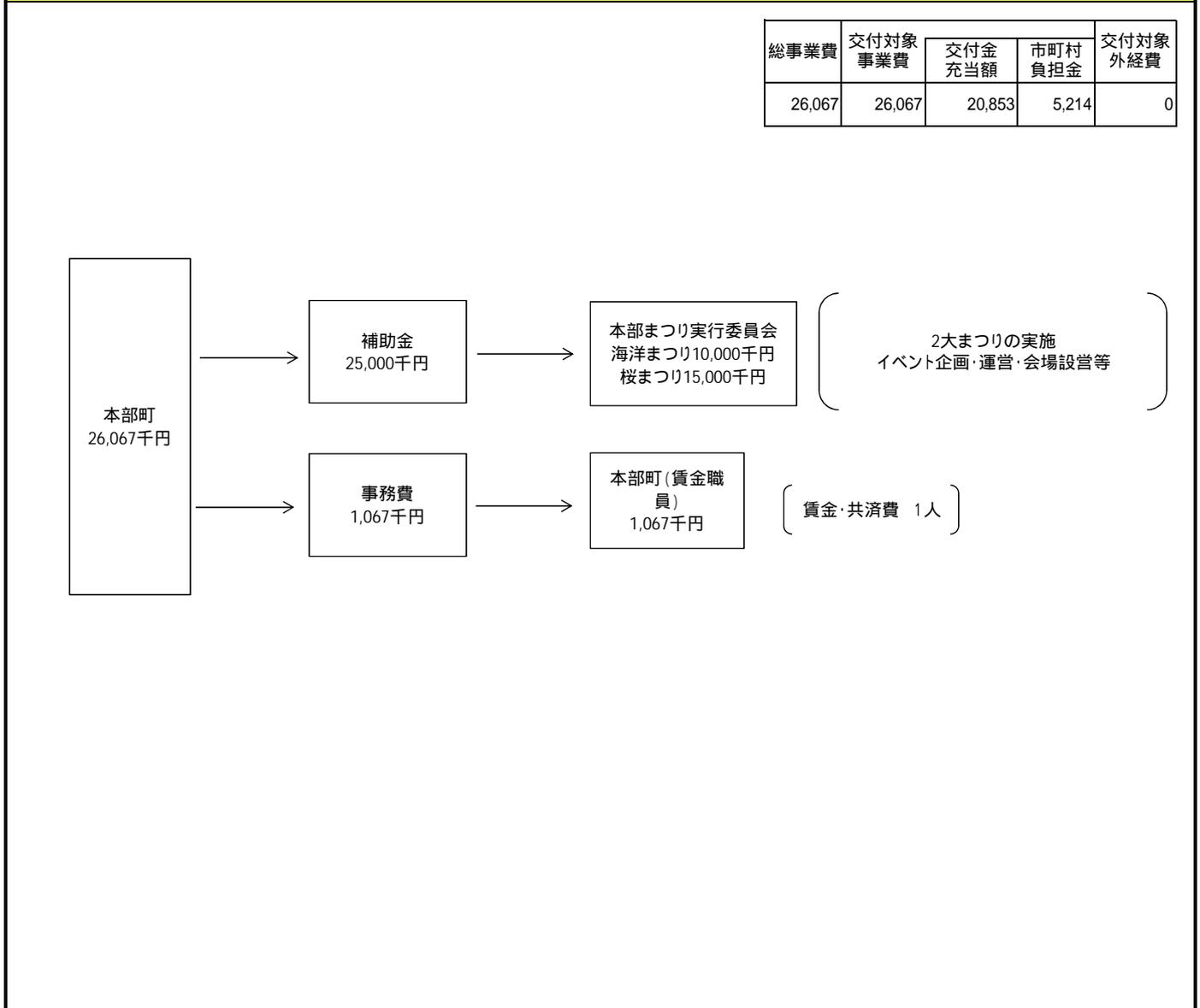
**今後の取り組み方針**

より多くの方が安全且つ楽しんで頂けるよう、イベント内容の充実を図り、会場設営については、設営業者との綿密な調整、警備会社との現場踏査などを行い徹底した安全対策に努める。

旅行会社等とも連携を図り、県外からも多くの方が訪れるイベントを目指す。

- 海洋まつりについては、バス会社やホテルと提携し、会場までのシャトルバスを運行する。
- 桜まつりについては、まつり会場へのツアーを含めた旅行商品を造成し販売する。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		本部町					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-	本部町キク拠点産地強化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ア	
	担当部課名	産業振興課	事業実施（予定）年度	平成24～26年度	沖縄振興基本方針該当箇所	おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備 -1-(6)	
事業内容	本部町のキク栽培における現状は、栽培農家の高齢化による労働力不足や、新たな担い手の確保等が課題となっている。そこで、下葉とり、高さ揃え、重量選別、結束を同一機械で行う花き選別機の整備を図り、一連の出荷作業の機械化体系を確立することにより、品質及び生産性の向上、経営規模の拡大を進め、担い手農家の確保や、農家所得の向上を図る。						
実施方法	直接実施      委託      補助      負担      その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	42,000	38,880			
		(b)予算現額	48,650	38,880			
		(c)増減額(b-a)	6,650	0			
		(d)繰越額	-	0			
	A.計(b+d)		48,650	38,880			
	B.執行済額		43,686	36,639			
	うち交付金充当額		34,948	29,311			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		89.8%	94.2%			
予算の状況の説明		不用額は発生しているが、消費税仕入税額控除に伴い事業者の負担額を増額したためであり事業は計画通りに遂行できた。					
活動目標（指標）及び達成状況	H25活動目標（指標）		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	自動結束ロボット付重量選別機導入	目標	( 7台導入 )	( 6台導入 )	( )	( )	
		実績	7台導入	6台導入			
		目標	( )	( )	( )	( )	
		実績					
達成状況説明	本事業により、平成24年度は7台、平成25年度は6台、計13台の自動結束ロボット付重量選別機を導入することができ、労働力及びコストの削減が可能となった。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H25成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（年度）
	自動結束ロボット付重量選別機導入数：6台	目標	( 0台 )	( 7台 )	( 6台 )	( )	( 19台 )
		実績		7台	6台		
	〔参考指標〕	目標	( )	( )	( )	( )	( )
		実績					
	進捗状況説明	平成24・25年度に自動結束ロボット付重量選別機を導入したことで、収穫選別作業の省力化及び作業時間の短縮が可能となり、作付面積拡大及び生産量増加を計画している。					

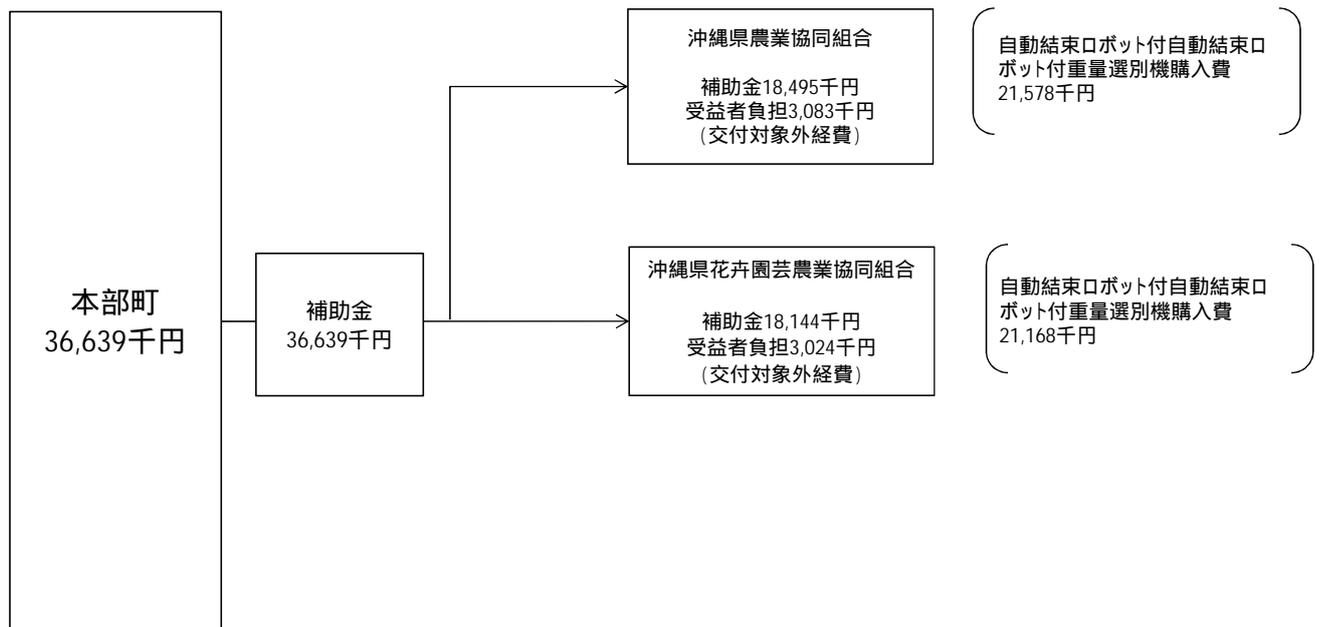
推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	自動結束ロボット付重量選別機の導入により、出荷作業に係る労働力及びコストの削減に成功した。	労働力及びコストが削減された分、栽培規模の拡大や品質の向上を図る。また、後継者や新規就農者の確保による更なる生産基盤の強化を図る。

**今後の取り組み方針**

平成26年度は自動結束ロボット付重量選別機を6台導入予定。  
 本事業により出荷作業時間の削減が削減されたことから、今後はコスト削減だけでなくブランド力を高めるための品質の向上や後継者育成も図っていく予定である。

**資金の流れ**  
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
42,746	36,639	29,311	7,328	6,107



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	事業実施主体は農業協同組合であり、予算についての管理体制も整っている。 予算規模は業者からの見積もりを基に積算しており、適正な規模である。 受益者負担は事業実施主体と協議し、適正な額を負担している。 費目・用途については、額の確定時には、支出に関する書類の確認を行っており、適正と判断した。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	本部町
------	-----

**平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】**

事業番号・事業名	2-	園芸農業防災施設整備事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ア
担当部課名	産業振興課	事業実施(予定)年度	平成24～25年度	おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備
			沖縄振興基本方針該当箇所	-1-(6)

**事業内容**  
 沖縄県では台風の襲来や病害虫の発生により農作物の被害が大きくなるため、農家経営に対する不安や生産意欲の減退などの課題がある。そこで、農業生産物の産地化を図るため、台風対策用のハウス等の施設の導入を行う。

**実施方法**  
 直接実施      委託      補助      負担      その他 (   )

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	(a)当初予算額	36,000	22,764			
	(b)予算現額	18,933	19,827			
	(c)増減額(b-a)	17,067	2,937			
	(d)繰越額	-	0			
	A.計(b+d)	18,933	19,827			
	B.執行済額	18,833	12,190			
	うち交付金充当額	15,066	9,752			
	次年度繰越額	0	0			
	執行率(%) (B/A)	99.5%	61.5%			
	予算の状況の説明	当初計画ではビニールハウス5件分の補助予定であったが、要望が3件しかなかったため不用額が生じた。				

活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)	達成状況			
		24年度	25年度	26年度	27年度
ビニールハウスの整備件数:5件	目標	( 8件 )	( 5件 )	(   )	(   )
	実績	5件	3件		
	目標	(   )	(   )	(   )	(   )
	実績				
達成状況説明	施設整備が完了し、台風等の自然災害に強い安定した生産基盤が確保できた。農家の生産意欲向上にもつながっており今後の生産活動に期待できる。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)	基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(26年度)
		目標	( 0 )	( 8件 )	( 5件 )	(   )
	実績		5件	3件		
	[参考指標]	目標	(   )	(   )	(   )	(   )
進捗状況説明	当初5件の施設整備を予定していたが、受益農家の資金繰等の問題が生じた為3件の整備となった。今後さらに要望調査を行い要望があれば継続して施設等の基盤整備を行っていく。					

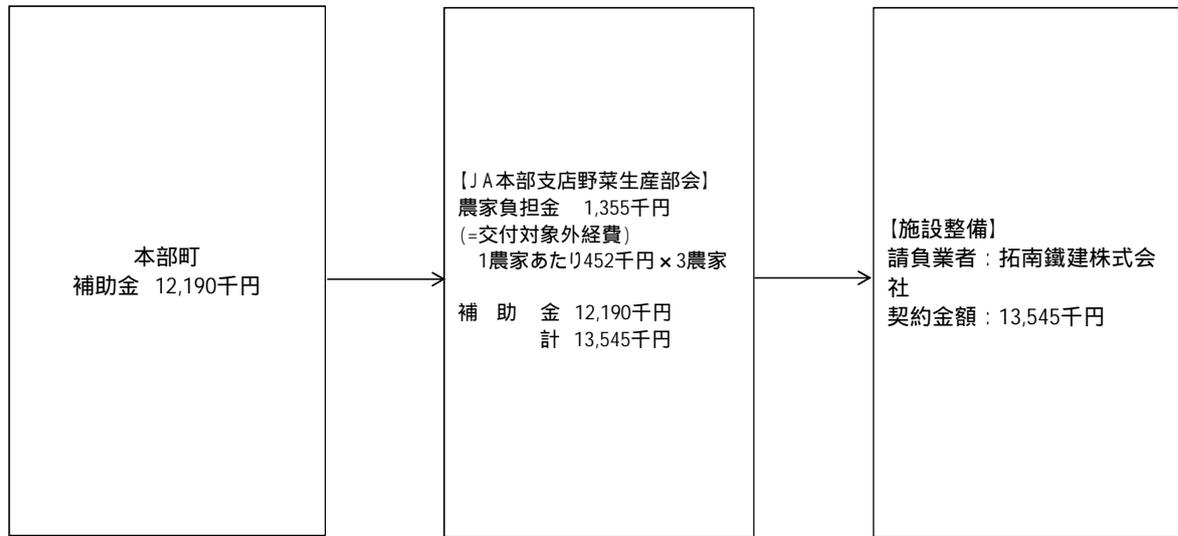
取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	施設の利用状況について確認するため、事業実施主体を通し栽培状況を定期的に報告させ、施設がうまく利活用されているか検証していく必要がある。	栽培技術の向上を目指し研修会や現地検討会を定期的開催する。

**今後の取り組み方針**

- ・施設の利用状況についてフォローアップを行い、研修会等で栽培技術の向上も図っていく。
- ・町内農家の動向を注視し施設整備の要望または需要があれば継続して事業の導入を検討する。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
13,545	12,190	9,752	2,438	1,355



資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明	
			支出先の選定方法は妥当か。	費目、使途は事業目的に即しており、支出先の選定方法も妥当である。 また、予算規模も適正であり、受益者との負担関係も妥当である。
			予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
			受益者との負担関係は妥当であるか。	
			費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

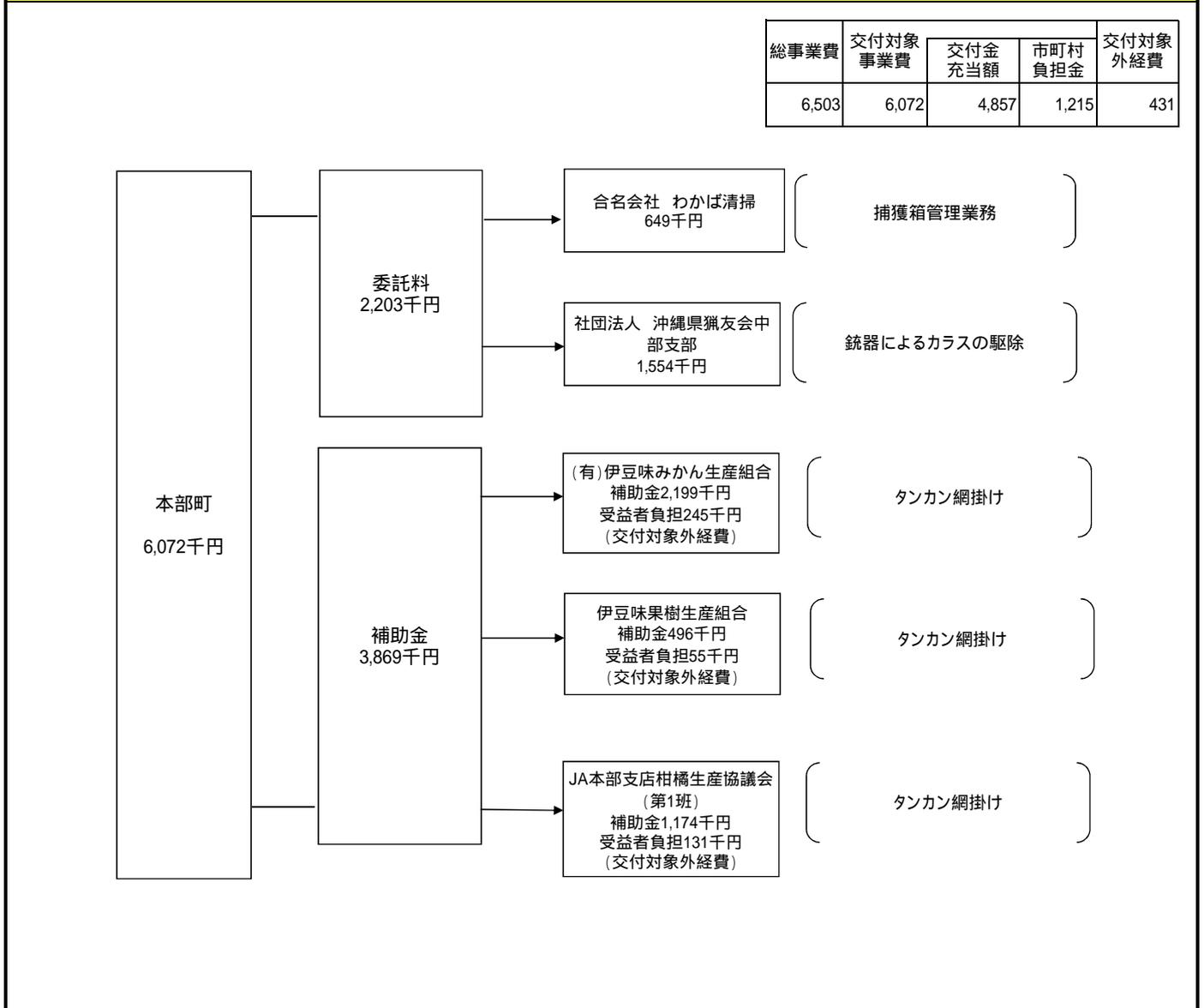
市町村名		本部町					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-	本部町有害鳥獣駆除対策事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ア	
担当部課名	産業振興課	事業実施(予定)年度	平成24～28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備 -1-(6)	
事業内容	本部町における鳥獣による農林水産業等の被害については毎年のように発生しているため、捕獲箱による駆除及び銃器駆除を行う。また被害防止の為に施策を総合的且つ、効果的に実施するため、みかん木へ網掛け防除を行う。						
実施方法	直接実施      委託      補助      負担      その他 (   )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	5,600	6,073			
		(b)予算現額	4,780	6,073			
		(c)増減額(b-a)	820	0			
		(d)繰越額	-	0			
	A.計(b+d)		4,780	6,073			
	B.執行済額		4,780	6,072			
	うち交付金充当額		3,823	4,857			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		当初の計画通り予算を適正に執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	カラス銃器による駆除の実施	目標	(銃器駆除数1,000羽)	(銃器駆除数1,000羽)	(   )	(   )	
		実績	1,587羽	1,277羽			
	カラス捕獲器による駆除の実施	目標	(5箱)	(5箱)	(   )	(   )	
		実績	5箱	6箱			
	タンカン木網掛けの設置	目標	(タンカン網掛け本数)	(タンカン網掛け本数)	(   )	(   )	
実績		タンカン網掛け本数1,360本	タンカン網掛け本数2,372本				
達成状況説明	鳥獣被害防止対策としてみかんの網掛けした場合残存率が90%、網無しについては15%しか果樹の保存率がない。このことから明らかに網掛けの効果が伺える。また、猟銃による鳥獣害カラスの捕獲についても、捕獲箱に餌をいれ捕獲するよりも駆除数が多い。このことから、今後についても網掛けや猟銃による捕獲に力を入れる必要がある。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(28年度)
	鳥獣区駆除数:1500羽	目標	(駆除数1,081羽)	(駆除数1,500羽)	(駆除数1,500羽)	(   )	(延7,500羽)
		実績	駆除数1,081羽	駆除数2,266羽	駆除数2,110羽		
	【参考指標】	目標	(   )	(   )	(   )	(   )	(   )
		実績					
進捗状況説明	近年、鳥獣による果樹の被害が増大しており、生産農家の生産意欲が低下している。そこで被害を防止するため防鳥ネットを設置し被害の拡大を防止する。また、猟銃による捕獲についても、年間1,500羽を目標とし、農作物の被害を押さえたい。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	防鳥ネットは設置に時間と労力がかかり、強風時や台風時には取り外す必要がある。またみかん木の成長にともない、網掛けの調整も行う必要がある。	現状分析し、効率化・改善策をさらに検討し実行する。鳥獣(カラス、ヒヨドリ)等による農作物の被害を防止するため、駆除の方法を検討しているが、カラスは、学習能力が高いため、なかなか数量が減らない。

**今後の取り組み方針**

カラスの銃器駆除は目標値を上回る効果が出せたので、平成26年度はカラス駆除実施隊を設置し北部地区野生鳥獣被害対策協議会にて対応していく。捕獲器による駆除については、今後は農家で設置・管理し対応していく。防鳥ネットは効果があることが証明されたが時間と労力がかかるため、今後は防鳥ネット設置の効率化も含めて検討していく。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流し、点検、費目・	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	鳥獣害対策については、みかん木の網掛けで農作物を守る方法が1番効果的である。次に銃による駆除や捕獲檻を使用し、捕獲する事も作物の被害防止に役だっている。 当該事業である被害防止対策を円滑に遂行する事ができる団体として猟友会のメンバーに委託しており、委託先の選定は妥当であると考えている。 受益者負担は事業実施主体と協議し、適正な額を負担している。 費目・使途については、額の確定時には、支出に関する書類の確認を行っており、適正と判断した。
		予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		本部町					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-	もとぶ自産自消推進モデル構築事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ア	
担当部課名	産業振興課	事業実施（予定）年度	平成24～28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備 -1-(6)	
事業内容	本町には観光客向けのホテルや飲食店等が多数立地しているが、町内にまとまった出荷組織がなく、個別の生産者単位では定期・定量出荷が困難であるため、町内産の食材がほとんど活用されておらず、観光振興及び農業振興上の大きな課題となっている。ゴーヤー、キャベツを始めとする在来ネギ、鳥らっきょう、ハンダマ、在来紅いも等、本町特有の島ヤサイ等の集出荷体制を整備し、それらを地元で消費する「自産自消推進モデル」を構築する。年間300万人が訪れる本町の観光業と農業をリンクさせ、農業振興と観光振興の相乗効果を図り、地域経済の活性化につなげる。						
実施方法	直接実施	委託	補助	負担	その他（ ）		
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	(a)当初予算額	8,700	15,000				
	(b)予算現額	8,700	15,000				
	(c)増減額(b-a)	0	0				
	(d)繰越額	-	0				
	A.計(b+d)	8,700	15,000				
	B.執行済額	7,596	9,121				
	うち交付金充当額	6,076	7,296				
	次年度繰越額	0	0				
	執行率（％）(B/A)	87.3%	60.8%				
予算の状況の説明	事業内で収益があり委託料より精算したため不用額が生じた。						
活動目標（指標）及び達成状況	H25活動目標（指標）	達成状況					
		24年度	25年度	26年度	27年度		
	直売所モデルの構築	目標	（生産者直売所の設置）	（生産者直売所の設置）	（ ）	（ ）	
		実績	生産者直売所の設置	生産者直売所の設置			
	移動集荷販売モデルの実証	目標	（移動集荷販売モデルの構築）	（移動集荷販売モデルの構築）	（ ）	（ ）	
		実績	移動集荷販売モデルの構築	移動集荷販売モデルの構築			
	島ヤサイの普及	目標	（島ヤサイの生産振興・販路拡大）	（島ヤサイの生産振興・販路拡大）	（ ）	（ ）	
実績		島ヤサイの生産振興・販路拡大	島ヤサイの生産振興・販路拡大				
達成状況説明	25年度は集出荷の効率化を図るため、移動集荷・販売モデルの実証に重点的に取り組んだ。周知活動の結果、集荷サービスの利用箇所数は対前年比7倍、販売サービスの利用箇所数は対前年比1.6倍で、利用件数も着実に増えており、サービスの必要性については実証された。 また、本直売所の設置により、島ヤサイの町内流通が確立された。島ヤサイは、高齢者や小規模農家が意欲的に生産に取り組んでおり、店内売上の23%を占めている。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H25成果目標（指標）	基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（28年度）	
	出品登録者数	目標	（0人）	（20人）	（40人）	（ ）	（100人）
		実績		69人	122人		
	町内取引先数	目標	（0業者）	（10業者）	（20業者）	（ ）	（50業者）
		実績		46業者	59業者		
進捗状況説明	事業目的である「自産自消」達成の指標として、直売所の利用者数を示す「出品登録者数」及び「町内取引先数」を採用している。周知に力を入れた結果、H25年度の出品登録者数は、目標40人に対し、実績が122人、町内取引先数は目標20軒に対し、実績は59軒となっており、利用者数は着実に増えている。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>今年度の事業実施について、事業推進上の問題は特にない。</p> <p>しかし、直売所運営上の課題としては、夏場の品薄対策や島ヤサイの販路拡大が挙げられる。</p>	<p>夏場の品薄対策…夏場つくれる品目の選定及び生産普及。 出品登録者数の増加。 移動集荷販売サービス強化。</p> <p>島ヤサイの販路拡大…学校給食・ホテル・飲食店との連携強化。 試食会の開催等による消費者に対する新たな食べ方の提案。</p> <p>レシビ開発。 加工業者との連携強化。 食農教育との連携強化。</p>

**今後の取り組み方針**

今後の事業展開にあたっては、次のとおり取り組んでいく。

出品登録者数の増加…生産者への出品登録の呼びかけを積極的に行う。

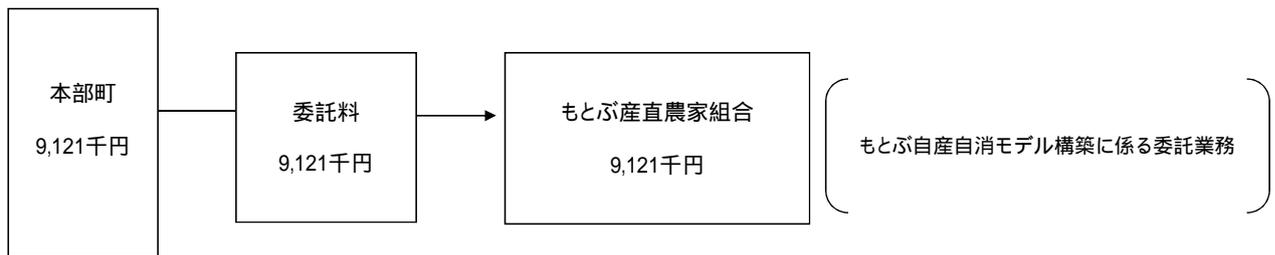
○町内取引業者数の増加…町内で生産されている品目・生産量等を調査・把握し、定時・定量出荷に努めることで、販路を開拓していく。

移動集荷・販売サービスの強化…直売所から離れた地区に居住する住民に対しても積極的に移動集荷・販売サービスのPRを強化し、直売所の活用を促す。

○島ヤサイの普及…講習会等を実施により栽培技術の向上を図ることで生産量を確保すると共に、地元業者との連携を強化し、町内の流通を拡大する。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
9,121	9,121	7,296	1,825	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○本事業の目的を達成し、かつ、当該事業を円滑に遂行することができる町内唯一の団体であると考えられるため、委託先の選定は妥当であると考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○予算規模・費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認した結果、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	本部町
------	-----

**平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】**

事業番号・事業名	2-	もとぶピージャー産地確立推進事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ア
担当部課名	産業振興課	事業実施(予定)年度	平成25～26年度	おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備
			沖縄振興基本方針該当箇所	-1-(6)

**事業内容**  
 沖縄県内で消費されている山羊肉の約8割が輸入山羊肉であるという事実から、本事業により県内産の山羊を改良増殖することで地産地消を推進する。

**実施方法**  
 直接実施      委託      補助      負担      その他 (      )

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	(a)当初予算額	-	39,827			
	(b)予算現額	-	39,827			
	(c)増減額(b-a)	-	0			
	(d)繰越額	-	-			
	A.計(b+d)	-	39,827			
	B.執行済額	-	39,359			
	うち交付金充当額	-	31,487			
	次年度繰越額	-	0			
	執行率(%) (B/A)	-	98.8%			
	予算の状況の説明	不用額は生じているが入札によるものであり計画通り事業は適正に執行できた。				

活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)	達成状況			
		24年度	25年度	26年度	27年度
山羊舎整備:2棟	目標	( 0 )	( 2棟 )	(      )	(      )
	実績	-	2棟		
	目標	(      )	(      )	(      )	(      )
	実績				
達成状況説明	事業計画に基づき山羊舎及び機械等の整備を行った。飼養頭数については山羊の認知度と高まりとともに飼養頭数が増加傾向にあり目標値を上回った。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)	基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(28年度)	
		共同山羊舎整備(2棟)により、一括管理による出荷体制の構築	目標	( - )	( - )	( 出荷体制の構築 )	(      )
	実績				出荷体制の構築完了		
	本部町山羊飼養頭数:450頭	目標	( 401頭 )	( 515頭 )	( 450頭 )	(      )	( 600頭 )
実績			515頭	537頭			
進捗状況説明	本町は平成23年度より町有山羊の貸付事業を実施し優良品種の普及促進に努めた結果、認知度の向上が図られ飼養頭数が増加傾向にあり目標頭数を上回った。						

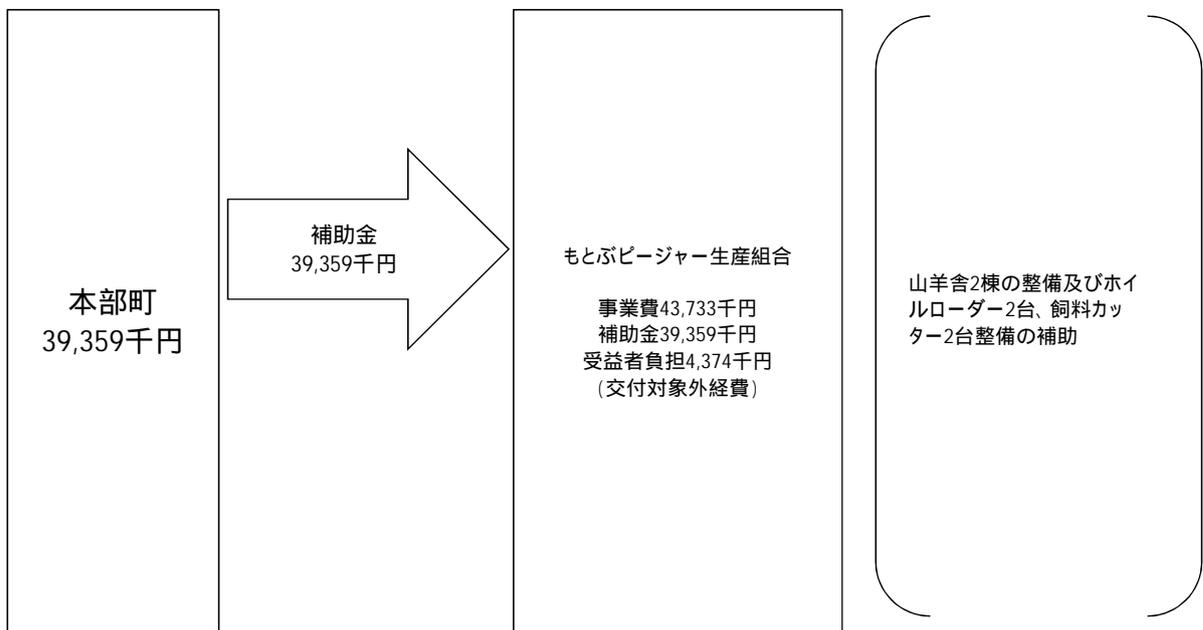
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	平成25年度の事業実施について、当初計画通り執行できた。飼養頭数も目標数値を上回る事ができたが、子山羊、母山羊の事故率が高いため、山羊肉の生産頭数の頭打ちが懸念される、今後は山羊肉の安定出荷に向け事故率の抑制に努める必要がある。	研修会等を実施し飼養管理技術の向上に努め、各種イベントに積極的に参加し認知度向上と需要拡大を図りたい。

**今後の取り組み方針**

ヤギの飼養研究を行っている大学や畜産研究センター等から講師を招聘し研修会を行い、生産者の飼養技術の向上と事故率の抑制に努め、ヤギ肉の安定出荷を図りたい。平成26年度については事業計画に基づき山羊舎1棟の整備を行う。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
43,733	39,359	31,487	7,872	4,374



資金の 使途の 流れ、 費目、 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	○事業主体は、本町内唯一の山羊生産者の団体であり、選定は妥当であると考えます。 受益者負担は適正な額を負担している。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認した結果、適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

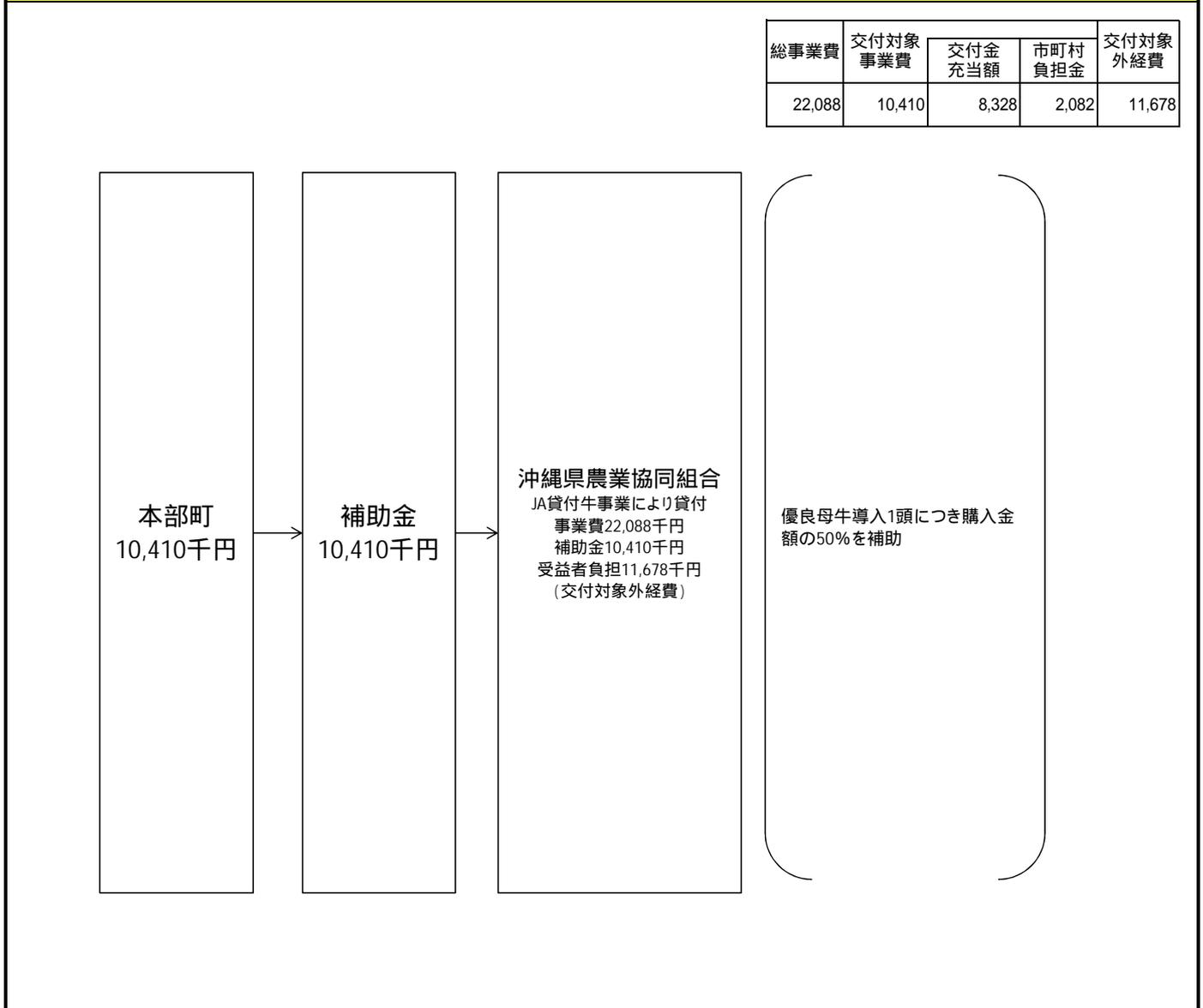
市町村名		本部町					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-	もとぶブランド牛基盤づくり支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ア	
担当部課名	産業振興課	事業実施(予定)年度	平成25～28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備 -1-(6)	
事業内容	肉用牛生産農家及び農業生産法人のもとぶ牛ブランド化の基盤創出のため、優良母牛の導入に対する補助を行う。						
実施方法	直接実施      委託      補助      負担      その他 (   )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	-	10,500			
		(b)予算現額	-	10,500			
		(c)増減額(b-a)	-	0			
		(d)繰越額	-	-			
	A.計(b+d)		-	10,500			
	B.執行済額		-	10,410			
	うち交付金充当額		-	8,328			
	次年度繰越額		-	0			
	執行率(%) (B/A)		-	99.1%			
予算の状況の説明		母牛導入の半額に対する補助事業であり、残額では1頭あたりの導入額に足りなかったため不用額となった。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	優良母牛導入の支援	目標	( 0 )	( 優良母牛導入の支援 )	(   )	(   )	
		実績	-	優良母牛導入の支援実施			
		目標	(   )	(   )	(   )	(   )	
		実績					
達成状況説明	当初20頭の導入を計画していたが、導入費用の高い妊娠牛を希望する農家が多かった。予算の範囲内での補助のため導入頭数が28頭となった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(24年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(28年度)
	優良母牛導入頭数:20頭	目標	( 0頭 )	( 0頭 )	( 20頭 )	(   )	( 延185頭 )
		実績		-	28頭		
	〔参考指標〕	目標	(   )	(   )	(   )	(   )	(   )
		実績					
進捗状況説明	当初20頭の導入を計画していたが、導入費用の高い妊娠牛を希望する農家が多かった。予算の範囲内での補助のため導入頭数が28頭となった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	ここ数年、牛のセリ価格が上昇しているため導入農家の負担が大きい。計画通り事業を執行するため、事業実施主体と受益農家の連携を図り円滑な事業執行に努める。	補助率が50%のため牛のセリ価格の上昇に伴い受益農家の負担が大きくなっている。設定された事業計画を円滑に執行するためにも補助率の見直しについて今後検討する必要がある。

**今後の取り組み方針**

他事業との受益者負担率の格差があるため負担率等の見直しを検討し、受益農家が優良母牛の導入しやすい環境を整え円滑な事業執行に努めたい。今後は導入牛が産した保留牛の飼養状況やセリに出荷した子牛の市場評価など勘案し、産地基盤整備を図る。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 点検 評価 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	○事業主体は、本事業の交付対象要件を満たす唯一の団体であり、選定は妥当であると考えている。 受益農家の負担率が他の一括交付金事業に比べ高い、セリ価格の高騰しているため受益農家の負担が大きい。 ○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認した結果、適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		本部町					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-	もとぶのマーサモン・ミジラシムンづくり支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(9)-イ	
担当部課名	商工観光課	事業実施（予定）年度	平成25～28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	県産品の販路拡大と地域ブランドの形成 -2	
事業内容	本部町の特産品を開発するため、本部町内の企業等に開発を委託し、より多くの特産品をつくりあげる。また、開発した特産品を紹介し、開発後の販売促進、町のPRを行う。なお、開発した特産品については、その製法・仕様を本部町内の企業等に無償で提供する。						
実施方法	直接実施      委託      補助      負担      その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	-	19,281			
		(b)予算現額	-	19,290			
		(c)増減額(b-a)	-	9			
		(d)繰越額	-	-			
	A.計(b+d)		-	19,290			
	B.執行済額		-	15,434			
	うち交付金充当額		-	12,347			
	次年度繰越額		-	0			
	執行率(%) (B/A)		-	80.0%			
予算の状況の説明		当初の積算額より低い金額で発注できたため不用額が生じたが、事業は計画通り遂行できた。					
活動目標（指標）及び達成状況	H25活動目標（指標）		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	特産品の開発	目標	( 0品 )	( 5品 )	( )	( )	
		実績	-	9品			
	開発した特産品の広告・宣伝	目標	( - )	(パンフレット作成)	( )	( )	
		実績	-	パンフレット作成 20,000部			
達成状況説明	・町内の5事業所へ特産品開発の委託を行い、「アセローラ」、「たんかん」、「かつおのなまりぶし」、「ヤギ」、「桜の木」を活用した本町の新たな特産品を9品開発した。 ・開発した特産品及び本町のPRをすることのできるパンフレットを20,000部作成した。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H25成果目標（指標）		基準値（24年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（28年度）
	特産品の開発	目標	( 0品 )	( 0品 )	( 5品 )	( )	( 20品 )
		実績		-	9品		
	開発した特産品の広告・宣伝	目標	( )	( )	(パンフレット作成)	( )	( )
		実績		-	パンフレット作成 20,000部		
	進捗状況説明	・町内の5事業所へ特産品開発の委託を行い、「アセローラ」、「たんかん」、「かつおのなまりぶし」、「ヤギ」、「桜の木」を活用した本町の新たな特産品を9品開発した。 ・開発した特産品及び本町のPRをすることのできるパンフレットを20,000部作成した。配布先は、各事業所、本部町商工会、本部町観光協会、渡久地港（水納島フェリー待合所）、本部港（伊江島フェリー待合所）、沖縄県市町村会館、那覇市近郊在住本部町郷友会総会、アセローラの日イベントにて配布。また、今後の予定として、町内特産品販売店、各ホテル、やんばるの産業祭り等の特産品を扱うイベントにて配布を予定している。					

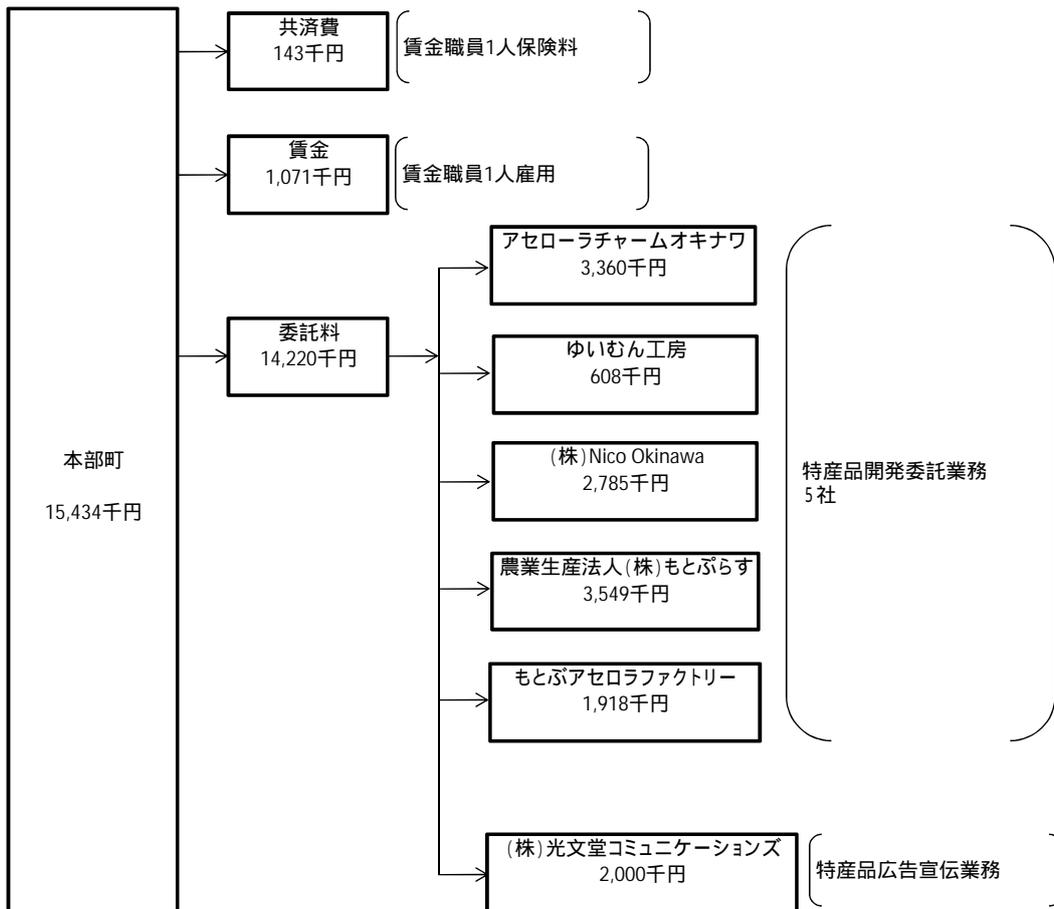
	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標を達成することができた。</li> <li>・完成した特産品の販売場所や今後の展開について考えを確立していく必要がある。</li> <li>・各企業同士の連携を強くし、個人事業所では発達力の弱いPR部分に関しては、マーサムン・ミジラシムン事業としてのPRをしてほしいとの要望がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニーズに応えるため、町主催のイベント等には、事業のブースを設置し、商品のPRを行っていく。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

- ・事業の中で作り上げた特産品のフォローアップをするべく、マスコミや町内の事業者を含めた「マーサムン・ミジラシムン発表会」を実施する。
- ・町内の特産品取り扱い施設を含めた販路拡大を企画し、フォローアップ体制を確立させる。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
15,434	15,434	12,347	3,087	0



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	・委託事業者は公募型プロポーザル方式により事業内容、地域への貢献度等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	・費目、使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について確認、適正であった。
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

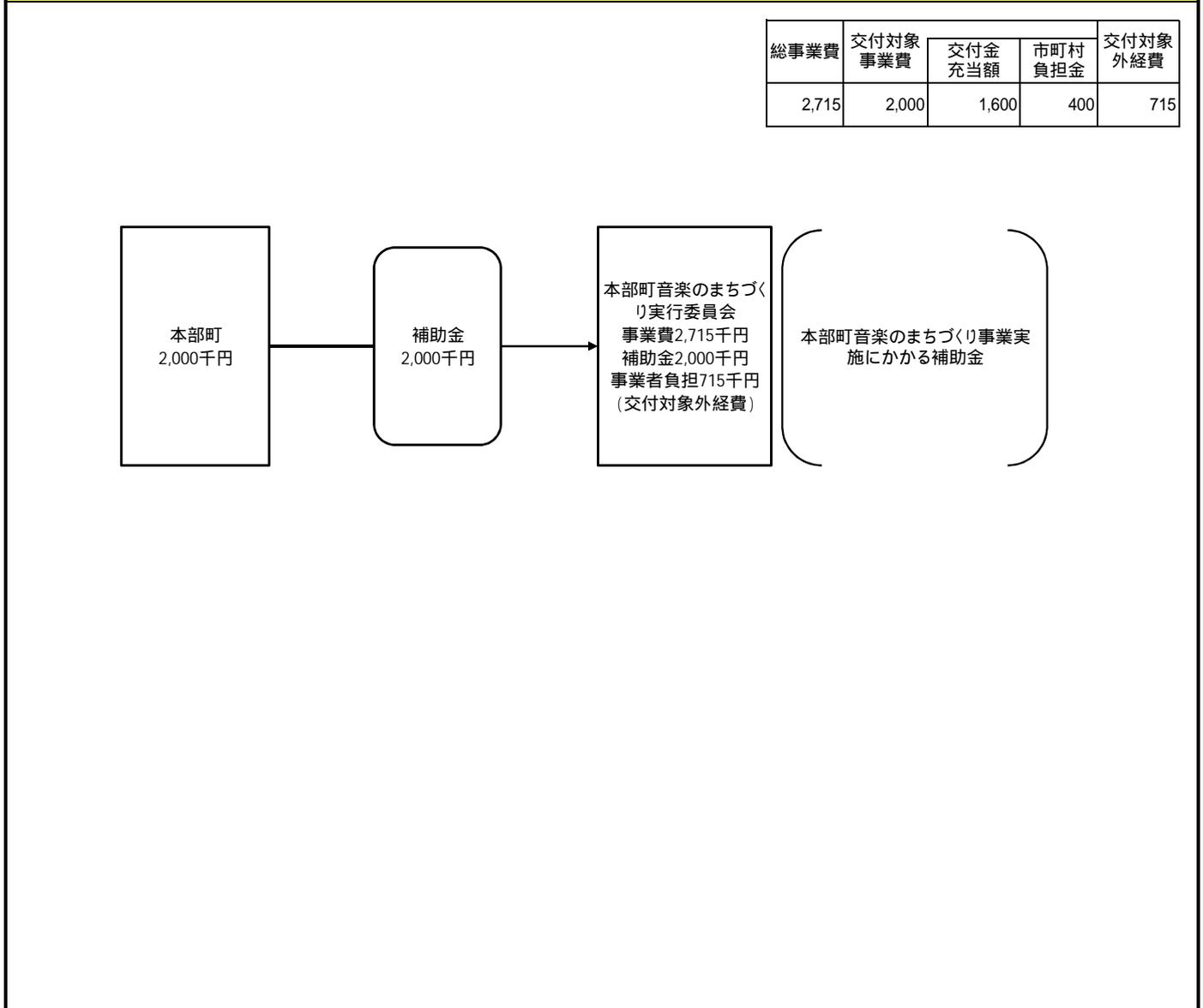
市町村名		本部町					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-	音楽のまちづくり事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(5)-ア	
担当部課名	企画政策課	事業実施(予定)年度	平成24～28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	文化資源を活用したまちづくり -3-(2)	
事業内容	琉球古典音楽、沖縄民謡、クラシック、ポップスなど、ジャンル枠を超えて多数の音楽家を輩出している本町を「音楽のまち」としてイメージを確立し、様々なジャンルの音楽イベントを開催しまちの活性化につなげる。また音楽の持つ感動体験は児童生徒にとってかけがえのない体験であり、この体験を通して豊かな感性を育む。						
実施方法	直接実施      委託      補助      負担      その他 (   )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	2,000	2,000			
		(b)予算現額	2,000	2,000			
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)繰越額	-	0			
	A.計(b+d)		2,000	2,000			
	B.執行済額		2,000	2,000			
	うち交付金充当額		1,600	1,600			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		当初の計画通り予算を適正に執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	音楽イベント等開催7回	目標	( 5回 )	( 7回 )	(   )	(   )	
		実績	8回	6回			
		目標	(   )	(   )	(   )	(   )	
		実績					
達成状況説明	本年度は、出演者とのスケジュール調整がうまくいかず、イベント開催回数目標は達成することはできなかったが、町内の中学校でのワークショップや事前学習などで、生徒と音楽家が直に触れ合う機会を多くとることができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(28年度)
	音楽イベント来場者数 300人	目標	( 0人 )	( 250人 )	( 300人 )	(   )	( 1,250人 )
		実績		440人	760人		
	[参考指標]	目標	(   )	(   )	(   )	(   )	(   )
		実績					
	進捗状況説明	今年度事業において目標値を上回る実績を得ることができた。イベント開催時アンケート等も行い、事業実施に当たりヒントとなる意見も得られ、今年度事業の成果目標は達成できたと考えている。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	本町にはプロ、アマチュアを問わずに、クラシックから古典音楽またはPOPSまで多くの音楽家を輩出している。しかしこれまでの本町においては、単発的な音楽イベントは多数行われてきたが、音楽を主眼においた、まちづくり事業は行われてこなかった。音楽の特性を活用して地域おこし、まちづくりを行うことで、本町の文化風土を再認識させ町民の生活に潤いを与えることも行政の役割だと考える。	実行委員会を事業主体にした事業運営にすることで、営利を追求する音楽興業ではできない、イベントの開催で地域の実情に応じた、イベント運営が可能であると考え。また児童生徒へのアウトリーチ公演等も行うことで、情操教育にも役立てることで公益性も考えられる。 今年度までの実施結果から音楽ジャンルがクラシックに偏向しているの、今後は琉球古典音楽や民謡などのイベント開催も取り組むようにしたい。

**今後の取り組み方針**

平成26年度も同じような取り組みを継続し実施していくうえで、上記に挙げた改善余地の検証項目の音楽ジャンルの幅を広げ、クラシック音楽だけでなく、琉球古典音楽や民謡等の公演や出前授業などを企画していくことで、音楽を通じた教育効果や観光振興につなげていくことで「音楽のまち=本町」を作り上げていく。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の 使途の 流れ、 費目、 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	補助事業者は地域組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

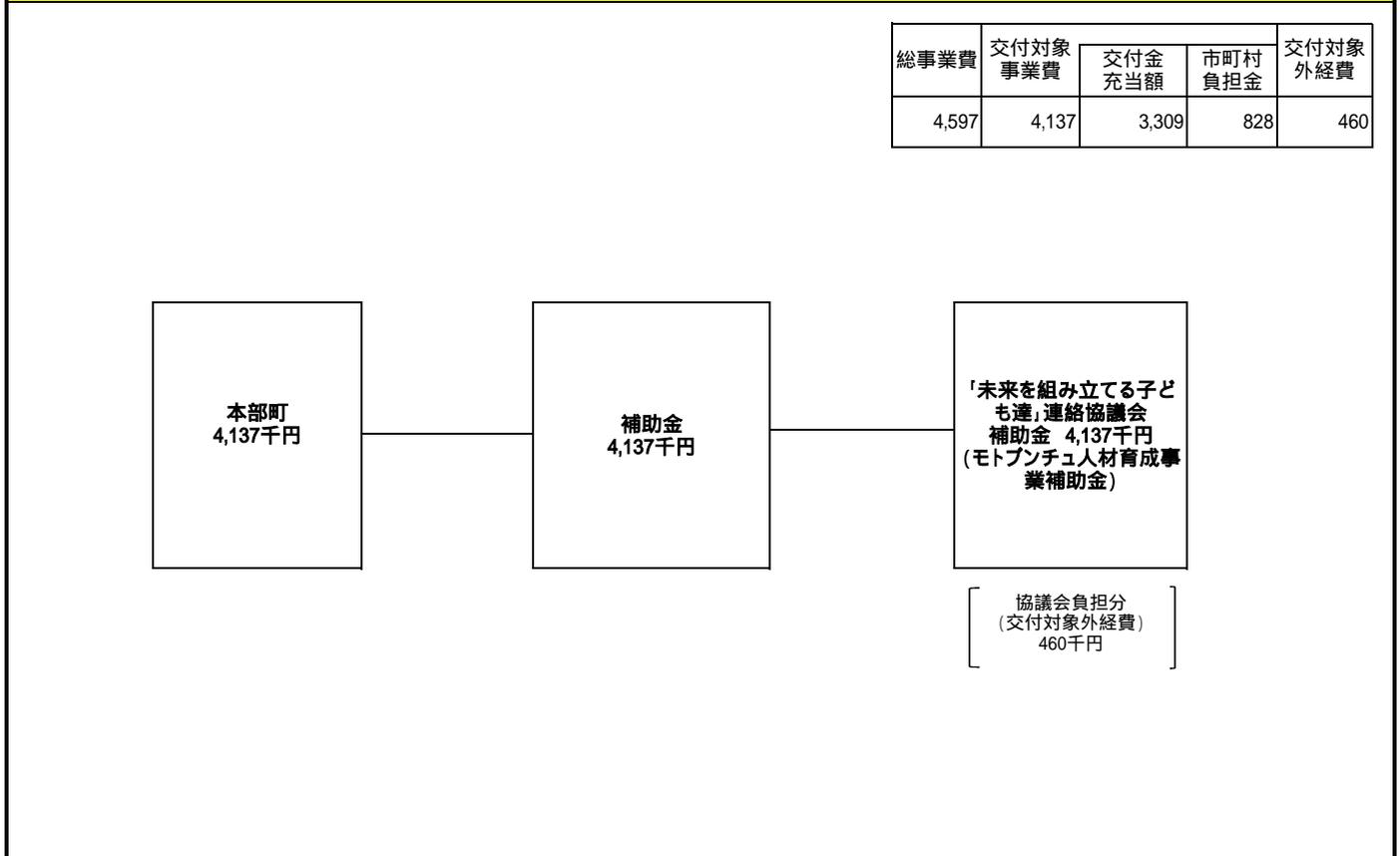
市町村名		本部町					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-	モトブンチュ人材育成事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第5章-1-(1)	
担当部課名	教育委員会	事業実施(予定)年度	平成25～29年度		沖縄振興基本方針該当箇所	自然、歴史、伝統、文化などの固有の特性を生かした個性豊かな地域づくり -3-(2)	
事業内容	沖縄の伝統文化である琉球舞踊、琉球民謡、方言、遊び、エイサー等を通して触れ合う場、学ぶ場を提供し、沖縄独自の伝統文化の継承を図る。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ( )						
予算額・執行額【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	-	4,257			
		(b)予算現額	-	4,257			
		(c)増減額(b-a)	-	0			
		(d)繰越額	-	-			
	A.計(b+d)		-	4,257			
	B.執行済額		-	4,137			
	うち交付金充当額		-	3,309			
	次年度繰越額		-	0			
	執行率(%) (B/A)		-	97.2%			
予算の状況の説明		事業予定施設にアスベストが見つかり当初計画より事業開始時期が遅れたため不用額が生じた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
	全町民を対象とした三線、琉舞教室等の伝統文化教室、町内イベントでの体験型プレイショップの提供を行い、伝統文化継承事業を展開する。	目標	( 0 )	( )	( )	( )	
		実績	-	・伝統文化継承教室開催 180回 ・体験型プレイショップ 3回			
		目標	( )	( )	( )	( )	
		実績		・伝統文化継承教室開催 70回 ・体験型プレイショップ 3回			
	達成状況説明	伝統文化継承教室 70回 ・ 体験型プレイショップ 3回 合計 73回(延べ) 内訳:三線教室(37回) ・ 自然遊び教室(6回) ・ 民謡教室(8回) ・ むかし遊び(11回) ・ 沖縄読み聞かせ(6回) ・ 沖縄空手(2回) 施設修繕工事により事業開始時期が遅れてしまい、目標としていた開催数を達成出来なかった。 町文化協会等の町内団体の協力があって講師を確保でき、定期的な教室を開催することができた。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(24年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(29年度)
	・伝統文化継承教室への参加者数:2,400人	目標	( 0人 )	( 0人 )	( 2,400人 )	( )	( 延利用者数 12,000人 )
		実績		-	伝統文化参加者数 708人		
	・町内イベントでの体験型プレイショップへの参加者数:600人	目標	( 0人 )	( 0人 )	( 600人 )	( )	( 延利用者数 3,000人 )
		実績		-	体験型プレイショップ 250人		
	進捗状況説明	・伝統文化継承教室 708人 内容:三線教室(209人) ・ 自然遊び教室(247人) ・ 民謡教室(22人) ・ むかし遊び(104人) ・ 沖縄読み聞かせ(115人) ・ 沖縄空手(11人) ・ 体験型プレイショップ 250人 内容:町内イベント(町主催まつり等)にて自然体験教室を開催した。 ・ 自由来館者 2,967人 内容:方言かるた等の沖縄文化を取り入れた遊びを実施。 合計 3,925人(延べ) 地域、協力団体の協力もあり、目標としていた参加者数を上回ることが出来た。また継続的な教室を展開することで参加者の文化継承に対する意識、意欲を高められた。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	アスベスト撤去に伴う施設修繕工事により事業開始時期が遅れてしまい、目標としていた教室開催数を達成することが出来なかった。また開始当初は周知不足の影響もあり、講師の確保、参加者の確保が不十分な部分もあったが、事業を展開していくにつれて地域や町文化協会などの協力団体の協力を得ることができ、定期的な教室を開催することが出来た。	周知不足を改善するために地域、協力団体と連携してチラシ配布、ポスター掲示等の積極的な広報活動が必要かと思われる。また三線、舞踊のみならず工作系などの文化継承教室など幅広いジャンルの教室を開催することで、幅広い年齢層が参加できる教室開催を目指す必要があるかと思われる。

**今後の取り組み方針**

周知活動について、町内小中学校に在籍の児童一人一人へのチラシ配布、学校、地域公民館へのポスター掲示の依頼を行うとともに町広報媒体(広報誌・電光掲示板)を利用しての教室案内を行うなど、積極的な広報活動を実施する。また地域、関係団体と連携して幅広いジャンルの文化継承教室を開催出来るよう講師の確保も行き、幅広い年齢層が交流できる事業を展開する。また教室で学んだ技術を披露する場を設けることで文化継承に対する意識、意欲をさらに高める。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何をを行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目 の 点 検	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	事業主体は本事業を達成し、かつ当該事業を円滑に遂行することができる唯一の団体であると考えられるため、選定は妥当であると考えている。 受益者負担は適正な額を負担している。 費目・用途については事業目的達成の観点から必要性を事業費確定時において支出等に関する書類により確認し、その結果適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		本部町					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-	赤土流出防止検討調査事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(1)-イ	
	担当部課名	企画政策課	事業実施(予定)年度	平成24～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	陸域・水辺環境の保全 -10-(1)	
事業内容	本町をはじめ沖縄県内で以前から問題とされている、海洋への土壌流出について、本町内での発生源調査や、その発生源に対する土壌面の被覆、ほ場等周辺へのグリーンベルトの植栽配置及び排水路でのフィルター材の設置など、流出面から河川へ至る線への対策を実施することで赤土の流出抑制を図る。						
実施方法	直接実施      委託      補助      負担      その他 ( )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	5,300	19,858			
		(b)予算現額	5,300	19,858			
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)繰越額	-	0			
		A.計(b+d)	5,300	19,858			
	B.執行済額		5,300	18,593			
	うち交付金充当額		4,240	14,874			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		100.0%	93.6%			
予算の状況の説明		不用額が発生しているが入札残等によるものであり事業は計画通りに執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	現地調査事業:満名川支線流域	目標	( 現地調査業務 )	( 現地調査事業1流域 )	( )	( )	
		実績	現地調査業務	現地調査1流域実施			
	流出対策工事:大小堀川流域	目標	( - )	( 流出対策工事3箇所 )	( )	( )	
		実績		工事未達成			
	グリーンベルト植栽事業	目標	( - )	( グリーンベルト植栽事業3箇所 )	( )	( )	
実績		-	グリーンベルト植栽事業4箇所実施				
達成状況説明	赤土流出が発生している河川流域の現地調査を行い、航空写真や現地踏査から発生源と考えられる場所の特定を行った。土砂流出対策工事の実施については、施工場所、工法等の問題で実施が困難な状況であった、その課題解決のために新たな対策手法の検討を調査業務で実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	現地調査事業:満名川支線流域	目標	( - )	( - )	( 1流域 )	( )	( 流出防止未実施裸地率5% )
		実績		-	1流域		
	流出対策工事:大小堀川流域	目標	( - )	( - )	( 3箇所 )	( )	( 流出防止未実施裸地率5% )
		実績		-	0箇所		
	グリーンベルト植栽事業	目標	( 0箇所 )	( 3箇所 )	( 3箇所 )	( )	( 流出防止未実施裸地率5% )
		実績		3箇所	4箇所		
進捗状況説明	赤土等流出が発生すると考えられる圃場等4箇所にグリーンベルト植栽を行い、畑地からの赤土流出防止対策を推進した。なお今年度から、農家の植栽意欲の向上にもつなげるよう、換金性のある植物をグリーンベルトとして植栽し、生育後の利用も視野に入れレモングラスを導入した。						

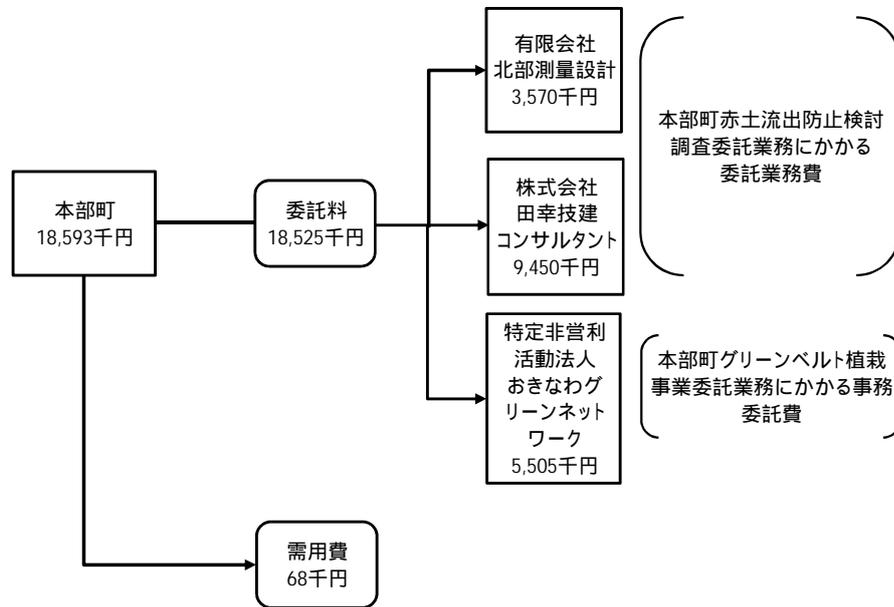
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	赤土等の流出が流域ごとにどのような場所で発生するのか調査を行ったが、流出源となる畑地等は私有地となるため、調査とはいえ土地立入に苦慮することがあった。 また対策の必要がある土地に対し、地権者の協力・同意を得て流出防止対策を行うことも課題が残る。 成果目標となる指標の設定について今後検討する必要がある。	流出源となる畑地等の地権者の協力を得るために、環境学習等の啓蒙普及活動の必要性を強く感じる。行政主導の強引な土地立入による流出防止対策には限界がある。 成果目標となる指標の設定を例えば河川流入時濁度のような数値的指標を取り入れることが必要であると考えられる。またそれを低コストで測定する方法等も検討する必要がある。

**今後の取り組み方針**

今後も流域ごとに流出源調査を行い、流出源の特定を行うことで、流出対策が必要な地点の優先度を検討することが可能となり、また今年度より検討している木材廃棄物チップを活用した濁質フィルターの効果を実証し、その結果を用いて効果的な流出対策を行うことができると考えられる。  
また、町民向けの環境学習等も継続して推進し啓蒙活動も行うことで、流出源となる土地の減少にもつなげる。  
さらに成果指標設定について再検討を行い、目に見える事業効果指標を再設定する。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

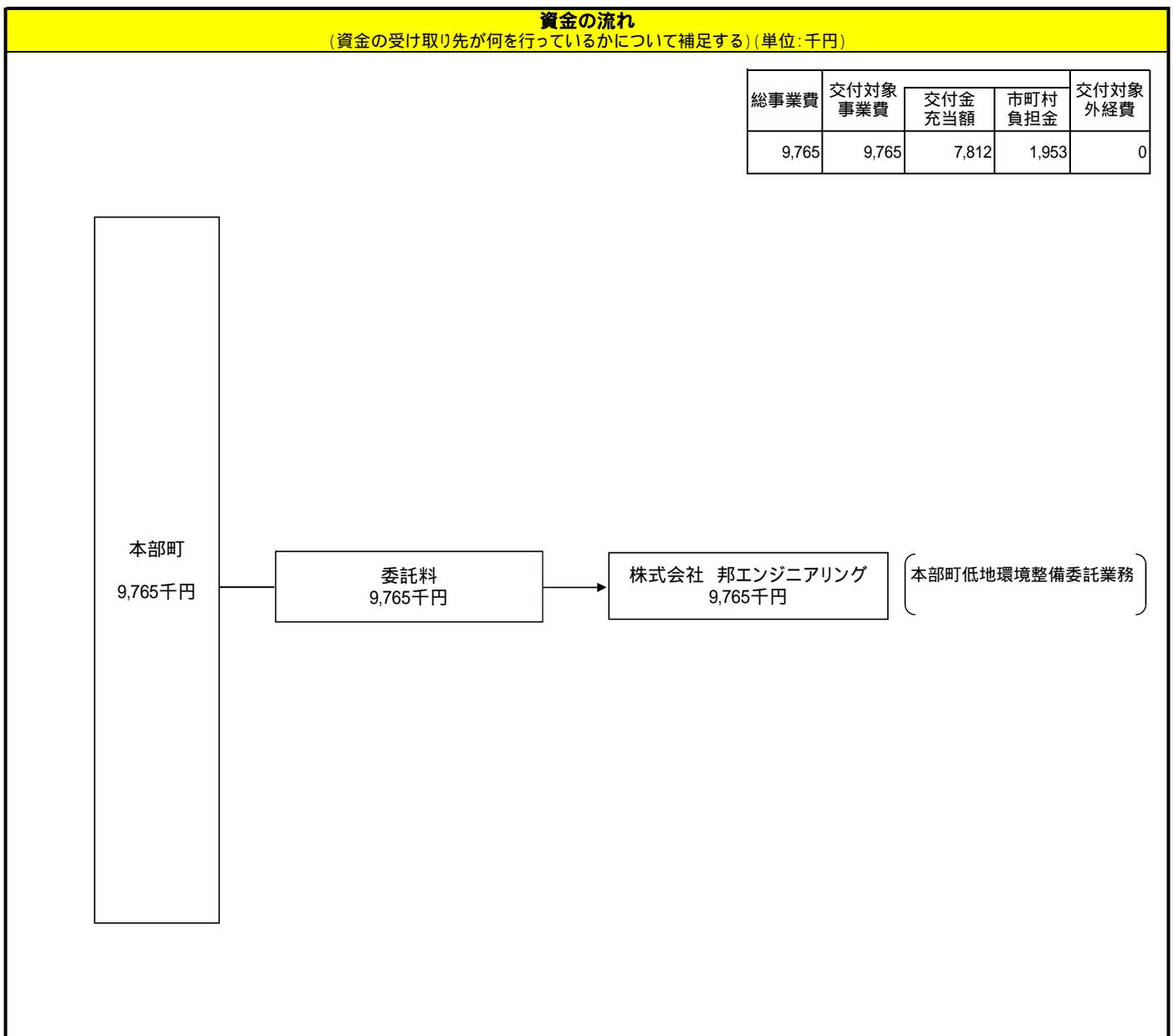
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
18,593	18,593	14,874	3,719	0



資金の流 点検 評価 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は入札及び、地域組織、実績、知識等を有しているものを選定したため妥当であったと考えている。 ○費目・用途については事業目的達成の観点から必要性を、事業費確定時において支出等に関する書類により確認し、その結果適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		本部町					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-	本部町低地環境整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(4)-イ	
担当部課名	建設課	事業実施（予定）年度	平成24～28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	災害に強い県土づくりと防災体制の強化 -10-(2)	
事業内容	本部町の地勢は全面が海で囲まれ、背後の山間部に挟まれた狭い平地に自治を形成している。大型の台風時には高潮による床上浸水等が発生しているため、地域住民及び観光客の安心・安全を図るためにも、低地部の排水計画及び施設整備を行う。						
実施方法	直接実施      委託      補助      負担      その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額 (b-a) (d) 繰越額 A. 計 (b+d)		-	10,000			
			-	10,000			
			-	0			
			-	-			
	B. 執行済額		-	9,765			
	うち交付金充当額		-	7,812			
	次年度繰越額		-	0			
	執行率（％）(B/A)		-	97.7%			
	予算の状況の説明		入札による不用額は生じたが当初の計画通り予算を適正に執行できた。				
活動目標（指標）及び達成状況	H25活動目標（指標）		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	・流末排水予定箇所の地質調査 ・満名川背後地における既設排水の平面及び縦・横断測量 ・既存排水システムの整理・末端排水計画及び断面・施設決定の設計	目標	( - )	( 浸水対策計画等の実施 )	( )	( )	
		実績	-	浸水対策計画等の実施			
			目標	( )	( )	( )	( )
			実績				
達成状況説明	満名川及び本部港湾からの逆流水による冠水解析と対策工法の案が示された。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H25成果目標（指標）		基準値（24年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（35年度）
	浸水対策計画等の実施 A= 155,000 m2	目標	( 0 )	( 0 )	( 浸水対策計画策定 )	( )	( 冠水率0% )
		実績		-	浸水対策計画策定		
	〔参考指標〕		目標	( )	( )	( )	( )
			実績				
	進捗状況説明	対策工法をもとに関係機関と調整のうえ早期の冠水解消対策工事を実施する予定である。					

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	冠水地域においては、港湾施設・海岸防災区域・河川区域と3分割された区域があり、3課との協議が必要となるため調整に時間を要する。	冠水対策において、冠水個所への流入量を軽減することが必要となるため関係機関の協力を得ながら早期解消を図りたい。
<b>今後の取り組み方針</b>		
対策工法をもとに関係機関と調整のうえ早期の冠水解消対策工事を実施する予定。		



資金の流 点検 評価 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託事業者は指名審査会により企業組織、実績、知識等を助案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		